

回答者の概要

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
回答率	26.3%	31.2%	30.8%	21.0%	30.0%	26.9%	23.0%	20.0%	31.5%	29.9%	22.5%	22.8%
N	1083	369	285	423	284	532	168	93	267	279	205	326

注:定員充足率については『大学の真の実力 情報公開BOOK』(旺文社)に基づき、2016年度の単年度定員充足率と2017年度の単年度定員充足率を算出し、その平均値を用いて分類している。

偏差値については『2018年版 大学ランキング』(朝日新聞出版)に基づき分類している。

学部系統については『今日の私学財政』(日本私立学校振興・共済事業団広報)を参考に分類している。

I. 教育の質保証(学習成果として定めた知識の理解度や技能の習得度を、一定以上確保すること)についてうかがいます。

問1. 貴学部は、教育の質保証にどの程度積極的に取り組んでいますか。

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①積極的に取り組んでいない	6.2%	6.0%	6.8%	6.1%	6.0%	6.8%	7.2%	2.2%	9.4%	3.2%	5.4%	6.8%
②どちらかといえば積極的に取り組んでいない	18.6%	19.5%	16.4%	19.4%	17.3%	21.7%	12.7%	16.1%	18.4%	18.8%	18.5%	18.8%
③どちらかといえば積極的に取り組んでいる	52.4%	54.2%	53.9%	50.1%	53.5%	51.2%	52.4%	57.0%	50.0%	50.5%	52.7%	56.2%
④積極的に取り組んでいる	22.7%	20.3%	22.9%	24.3%	23.2%	20.2%	27.7%	24.7%	22.2%	27.4%	23.4%	18.2%
N	1078	369	280	423	284	529	166	93	266	277	205	324

問2. あなたは、教育の質保証にどの程度積極的に取り組んでいますか。

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①積極的に取り組んでいない	4.0%	4.1%	2.8%	4.5%	4.2%	3.6%	4.8%	3.2%	5.6%	3.6%	1.5%	4.3%
②どちらかといえば積極的に取り組んでいない	9.9%	7.6%	8.8%	12.6%	9.2%	10.2%	10.2%	9.7%	9.0%	10.5%	8.9%	10.7%
③どちらかといえば積極的に取り組んでいる	54.5%	54.1%	55.8%	54.9%	52.3%	55.1%	54.8%	61.3%	54.5%	53.4%	56.2%	55.5%
④積極的に取り組んでいる	31.5%	34.2%	32.5%	28.0%	34.3%	31.1%	30.1%	25.8%	30.8%	32.5%	33.5%	29.4%
N	1078	368	283	421	283	530	166	93	266	277	203	326

問3. 貴学部では、教育の質保証に積極的に取り組もうという意識は、どの程度の教員に共有されていますか。印象で結構ですので、貴学部の専任教員全体に占めるおおよその割合をお書きください。

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	60.3%	59.5%	61.0%	60.5%	58.8%	58.5%	66.6%	63.0%	63.3%	59.1%	60.7%	58.5%
中央値	65.0%	60.0%	70.0%	60.0%	60.0%	60.0%	70.0%	70.0%	70.0%	60.0%	65.0%	60.0%
最小値	0.0%	0.0%	10.0%	5.0%	5.0%	0.0%	10.0%	5.0%	0.0%	10.0%	5.0%	5.0%
最大値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
標準偏差	23.5	23.7	23.6	23.5	24.1	23.3	22.6	23.5	23.5	24.7	23.0	22.8
N	1053	361	274	413	278	515	163	92	260	273	195	320

問4. 貴学部では、以下のような学習面での問題を抱えている入学者をどの程度受け入れていますか。印象で結構ですので、貴学部の入学者全体に占めるおおよその割合をお書きください。

1) 所属学部で学ぶ上で必要となる基礎学力の著しい欠如(例えば義務教育レベル)

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	29.3%	36.4%	27.2%	24.6%	35.5%	30.6%	24.1%	13.4%	27.5%	26.9%	29.4%	33.0%
中央値	20.0%	30.0%	20.0%	20.0%	30.0%	22.5%	20.0%	10.0%	20.0%	20.0%	20.0%	30.0%
最小値	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
最大値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	95.0%	70.0%	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%
標準偏差	24.6	27.0	22.5	22.4	26.1	24.7	21.6	13.6	22.8	23.2	27.8	24.8
N	1047	360	275	406	276	512	163	90	258	270	195	318

2) 学習習慣や学習レディネスの著しい欠如

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	34.9%	40.3%	33.7%	31.2%	39.8%	36.3%	31.3%	19.8%	33.9%	32.6%	33.9%	38.8%
中央値	30.0%	40.0%	30.0%	25.0%	30.0%	30.0%	27.5%	15.0%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%
最小値	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
最大値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	95.0%	80.0%	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%
標準偏差	25.7	26.5	25.4	24.4	26.2	26.4	23.0	17.1	24.7	24.7	27.5	25.9
N	1046	359	275	406	276	512	162	90	257	270	196	317

問5(A). 貴学部には、卒業生に最低限身につけさせるべき知識・技能・態度等について、明確で具体的な基準(例えば、建学の精神や教育理念、DP等の内容をより明確で具体的なレベルにまで落とし込んだような基準)が学内向けに設定されていますか。

1) 所属学部で学ぶ上で必要となる基礎学力

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①設定されていない／わからない	42.4%	45.7%	42.4%	39.6%	43.5%	45.6%	33.9%	36.3%	39.6%	35.7%	49.0%	46.4%
②設定されている	57.6%	54.3%	57.6%	60.4%	56.5%	54.4%	66.1%	63.7%	60.4%	64.3%	51.0%	53.6%
N	1060	361	276	417	278	520	165	91	260	277	198	319

2) 基礎的な教養・知識・技能

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①設定されていない／わからない	41.7%	45.0%	42.8%	38.0%	41.7%	46.7%	30.3%	33.0%	36.9%	35.4%	49.0%	46.4%
②設定されている	58.3%	55.0%	57.2%	62.0%	58.3%	53.3%	69.7%	67.0%	63.1%	64.6%	51.0%	53.6%
N	1058	360	276	416	278	518	165	91	260	277	196	319

3) 専門分野の基礎的な知識・技能

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①設定されていない／わからない	37.1%	38.6%	39.5%	34.1%	37.4%	41.8%	24.8%	31.1%	24.2%	30.4%	50.3%	45.1%
②設定されている	62.9%	61.4%	60.5%	65.9%	62.6%	58.2%	75.2%	68.9%	75.8%	69.6%	49.7%	54.9%
N	1058	360	276	416	278	519	165	90	260	276	197	319

4) 学習習慣や学習レディネス

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①設定されていない／わからない	59.4%	59.2%	60.9%	58.8%	60.8%	61.5%	54.0%	53.8%	55.8%	56.0%	62.9%	63.3%
②設定されている	40.6%	40.8%	39.1%	41.2%	39.2%	38.5%	46.0%	46.2%	44.2%	44.0%	37.1%	36.7%
N	1057	360	276	415	278	519	163	91	258	277	197	319

5) 社会に出しても恥ずかしくない態度

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①設定されていない／わからない	52.0%	50.0%	54.3%	52.2%	51.3%	52.9%	50.0%	52.7%	41.7%	59.2%	57.1%	50.9%
②設定されている	48.0%	50.0%	45.7%	47.8%	48.7%	47.1%	50.0%	47.3%	58.3%	40.8%	42.9%	49.1%
N	1058	360	276	416	277	520	164	91	259	277	198	318

問5(B). また、設定されている場合、あなたはそれを意識して教育活動を行っていますか。

1) 所属学部で学ぶ上で必要となる基礎学力

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①意識して行っていない	11.7%	12.3%	13.9%	9.9%	15.4%	11.0%	9.2%	10.3%	6.4%	12.4%	15.8%	13.5%
②意識して行っている	88.3%	87.7%	86.1%	90.1%	84.6%	89.0%	90.8%	89.7%	93.6%	87.6%	84.2%	86.5%
N	609	195	158	252	156	282	109	58	156	177	101	171

2) 基礎的な教養・知識・技能

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①意識して行っていない	8.8%	8.6%	14.6%	5.4%	12.4%	8.7%	5.2%	6.7%	5.5%	11.2%	11.0%	8.2%
②意識して行っている	91.2%	91.4%	85.4%	94.6%	87.6%	91.3%	94.8%	93.3%	94.5%	88.8%	89.0%	91.8%
N	615	197	158	257	161	276	115	60	163	178	100	171

3) 専門分野の基礎的な知識・技能

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①意識して行っていない	6.2%	5.9%	8.4%	5.1%	9.9%	6.3%	2.4%	3.2%	3.1%	5.8%	6.1%	10.3%
②意識して行っている	93.8%	94.1%	91.6%	94.9%	90.1%	93.7%	97.6%	96.8%	96.9%	94.2%	93.9%	89.7%
N	661	219	166	273	172	300	124	62	195	191	98	174

4) 学習習慣や学習レディネス

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①意識して行っていない	15.4%	12.9%	20.6%	14.6%	21.1%	14.1%	14.7%	9.5%	7.0%	19.8%	12.3%	21.4%
②意識して行っている	84.6%	87.1%	79.4%	85.4%	78.9%	85.9%	85.3%	90.5%	93.0%	80.2%	87.7%	78.6%
N	428	147	107	171	109	199	75	42	114	121	73	117

5) 社会に出しても恥ずかしくない態度

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①意識して行っていない	10.3%	9.4%	16.9%	7.1%	12.6%	10.7%	6.1%	9.3%	8.7%	14.3%	7.1%	11.0%
②意識して行っている	89.7%	90.6%	83.1%	92.9%	87.4%	89.3%	93.9%	90.7%	91.3%	85.7%	92.9%	89.0%
N	505	180	124	198	135	242	82	43	150	112	85	155

問6. 貴学部(あるいは大学)において、教育の質保証の実現の妨げになっているのはどのようなことですか。どのようなことでも結構ですので率直にお書きください。例)教育活動に熱心に取り組んでも、それに見合うだけの評価が得られない。

- ・少人数教育の弊害で、学生個々の進捗に差がでてしまう為、レベル設定がとても難しい。(50%未満、BF、人文科学系)
- ・実現するための予算(50%未満、BF、人文科学系)
- ・学生観、大学教育観の相違一ダメな学生は切り捨てれば良いという考え方と一人一人の学生に即して丁寧に教え、支援し、ケアしていくという2つのタイプの教師が存在する。(50%未満、BF、人文科学系)
- ・ここ数年、入学生が極端に少なく、大学運営予算が激少している。そのためか、学生が学習する上で必要な図書、資料等の整備ができない。教員の研究費、学会・研究会参加等の費用が制限。(50%未満、BF、人文科学系)
- ・専任と非常勤の意思疎通の場が少ないこと。(50%未満、BF、人文科学系)
- ・学生の実態に応じた授業を展開していない(50%未満、BF、人文科学系)
- ・学生人数が少ないため、他学生との学び合う機会が限られている。(50%未満、BF、人文科学系)
- ・基礎学力が不足している全学生に、「●●●●」授業を行っているが担当しているのは(少数の)専任教員で負担が大きい(50%未満、35、人文科学系)
- ・個人の資質の問題がある。(50%未満、35、人文科学系)
- ・高校卒業までの基礎学力が低すぎる学生には、大学のカリキュラムが難しい。学生の学力レベルのバラツキが大きすぎて、同じクラスでの指導が困難。(50%未満、35、人文科学系)
- ・卒業生を採用する企業が、大学での学習成果を適切に評価しないことが最大の妨げである。「基準」を厳格に適用すれば中退を余儀なくされる学生たちを励まし、能力を高めることは重要であり、社会にとって有益な成果をあげている。(50%未満、35、人文科学系)
- ・教育の質が教員評価と結びついていない。業務の分担が不平等。熱心に取り組んでも、デタラメなことを言う教員によってだいたいになってしまう。(50%未満、35、人文科学系)
- ・教育活動と研究活動の両立のディレンマ。どちらか一方に極端に傾く傾向がある様に思われます(50%未満、35、人文科学系)

・学習障害が疑われる学生（個別対応ではある程度、学生個人に沿った対応を心がけることはできるが、受講人数の多い授業や教員のうけもちコマ数が多いと手がまわらない）遅刻等が多い学生（教員の手がとまるので来ている学生に申し訳ない）ここに手がとられるので学習意欲のある学生にまわすエネルギーがこかつて、意欲的な学生がわりをくっている気がする。やってもやらなくても給与等は同じ。補講が多い学校システム。（50%未満、35、人文科学系）

・教職員の異動が多く、各種業務や教育支援等を発展的に積み上げることが難しい。（50%未満、35、人文科学系）

・定員維持が難しい状況で、学生を広くに受け入れなければならないこと。（50%未満、35、人文科学系）

・共有・共通理解の場がとぼしい。（50%未満、35、人文科学系）

・入学者数確保に東奔西走しなくてはならず、思いに反して準備の時間が削られてしまう。（50%未満、35、社会科学系）

・いわゆる基礎学力、学習習慣等を身につけさせることの難しさ・・。（50%未満、35、社会科学系）

・学生の学力差、幅の広さ（50%未満、35、社会科学系）

・①FDでの周知徹底の不足②人事考課制度の欠陥（50%未満、35、社会科学系）

・授業コマ数が多い。学生一人ひとりが皆異なるので画一的な授業では実現がむづかしい。（50%未満、35、社会科学系）

・質の保証の尺度がない。即ち、簡単に単位が取れる科目もある。（50%未満、35、社会科学系）

・教育活動に熱心に取り組んでも、それに見合うだけの評価が得られない。学生の入学時のレベル（英語）が低過ぎて、目標を具体的にし過ぎると、心理的プレッシャーになったり、卒業できない学生が出てくる。建学の精神、理念などについては徹底しているが5)の具体的なマナーなどの目標に結びついているようには思えない。（50%未満、37.5、人文科学系）

・大学運営業務の負担が大きい（50%未満、37.5、人文科学系）

・学生が目標設定したある一定以上の能力に追いつかないこと。（50%未満、40、人文科学系）

・●●●であることから、カリキュラムを変更することができない。カリキュラム上の問題が、大きく、そのため、学生たちは、卒業したとしても、4年制大学卒業レベルの知識を身に付けることができないだろうと思われる。カリキュラム設計自体に問題があるが、それに関った教員が、そのことに気付かないまま。（50%未満、40、人文科学系）

・学部の中での専門性が多様であり、カリキュラムが十分に対応できていない（●●ということも影響して改善がすぐに出来ない）（50%未満、40、人文科学系）

・教員間に偏りはあるが、学内業務が多い場合がある（50%未満、40、人文科学系）

・実施の合意が不十分なまま実施していること及びその成果の共有が不十分である。（50%未満、40、社会科学系）

・教員数の不足。周囲の理解不足。学生のモチベーションの低さ。（50%未満、40、社会科学系）

・大学までの教育が不十分である学生が多い。学習習慣がない学生、学ぶ意味を理解できない学生が多い。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・教員同士のつながりが無い、情報共有が出来ていない（50%以上80%未満、BF、保健系）

・教養の教員と専門の教員の間に考え方の相違がある。教養の教員の教育指導が甘すぎる。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・質の定ギが難しい。何より定員充足が至上課題で入学時の学力質保証が機能せず、ゼロレベルからの再教育システムもつukれない。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・入学者の学力が低い。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・指導に時間がかかり、効果もすぐにあらわれない（50%以上80%未満、BF、保健系）

・推薦入試等、一般入試を経ずに入学したものは入学後も定期試験等への対応ができていない。習慣づけを行うための働きかけもなかなか自身のこととして受けとめられないところもある。退学者を多く出さないために「不可」を出すことに對してあまり大学としては良い印象をもっていない。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・基礎学力ののびない。学習習慣が育たない。コミュニケーション能力が低い。発達障害？（50%以上80%未満、BF、保健系）

・学生の質の低下。教員の質の低下。教員の質評価に対する意識の違いの大きさ（温度差あり）。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・事務的な業務が多く、教育、研究活動の時間確保が難しい。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・入学してくる学生が少いので、厳しい基準をあてはめられない。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・付属の病院がなく、臨床の体験が少ない。学生の能力がバラバラで、低い方に合わせて対応しているので、能力の高い学生の教育が不十分。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・教員の多忙。学生の基礎学力の低さ。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・入学してくる学生の能力が低いことにより、能力のある学生とのギャップがあり、教育・指導が難しい（50%以上80%未満、BF、保健系）

・社会人が多く、意欲高いが、同期での学習時間（ミーティング等）が少ない。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・教員の多忙さ。学生の多忙さ。ごく一部の学生ではあるが、基礎学力が極めて低く学修が不十分でありながら、不合格にしにくいという現実があること。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・基準を明確に設定すると、退学者が大量に出るおそれがある。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・教育活動に熱心に取り組んでも、処遇改善につながらない。熱心に取り組む人のところ、できる人のところにだけ仕事が集まる。（50%以上80%未満、BF、保健系）

・教育の質保証の実現に向けて、全学を挙げて、多くの事業展開を積極的に取り組んでいる。教育、研究、社会貢献、大学運営と業務過多である。時間的余裕が欲しい。業務の効率化が必要と考えている。（50%以上80%未満、BF、理・工学系）

- ・卒業した学生(卒業生)については、きちんと学科の卒業に必要な単位を修得して卒業しているので、一定の質を持っていると言える。が、実際に「身についている」と言えるかどうかは難しい(一応、実現している。との立場)後者については問7の基準や卒業試験(院試と同等?)の実施も良いと思うが、大学間の差が大きいように思えるので、統一の基準は難しいと思う。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・①「多様な」学生を受け入れているが、様々な困難や課題をかかえている学生への対応ないし教育的配慮が不十分すぎる。②全体として、大学に対する外部評価にパスする程度の「質保障」にとどまり、個々の学生の可能性(潜在的能力)を引き出そうとする姿勢に欠ける。もちろん個々の教員のなかには、そうしたとりくみを実践している(可能なかぎり)ものが存在しないわけではない。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・教員個々の考え方が異なり、情報の共有や共通の問題意識を持つことは困難である。教育の質保証に熱心に取り組んだ場合の査定もない。評価されるかされないかは、上に気に入られているかどうかで決まるため。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・入学生(高校卒業生)が、高校レベルの数学力を修得せずに、高校が卒業させている。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・共通科目(一般教養系)に対する意識が専門科目を担当している先生には低いように感じる。また授業を受けようという学生の意欲や姿勢が足りないのではと思うことがある。(それを教員がどうするかが重要であるが。)(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・入学者が選抜されず、全て入学する。そのため、中学レベルの学生が多い。全員進級、卒業させるという上からのプレッシャーが強い。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・学習教育日(DP)、AP、カリキュラムポリシーや授業評価・自己評価、教育効果の可視化などいわゆる教育改善の仕組みは改善されているが、実質的な学生の資質・能力の向上には繋がってきていない。小子化に伴い、増々入学者の質が低下している。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・本学は、ボーダーレス(偏差値)な大学であるため、学習習慣の身についた学生が少ない。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・経営上、教員数減によるマンパワー不足。教員への雑務増。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・レポート提出を多く出すと学生による教育評価が悪くなる。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・JABEEに沿って、質保証をしている。妨げはない(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・教職員の能力。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・基礎学力の不足、学習習慣が身についていない。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・取り組みに対する評価が難しい。教員個々の教育の質に関する認識に差がある。教職員の人間関係のトラブルや人格的な問題。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・以下の理由により、教育質保証の活動に充てる時間が取りにくく、活動に困難さがある。(1)大学運営に計画性が乏しく、二度手間等による無駄時間がしばしば見られる。(2)事務職員数が少なく、事務業務処理でオーバーフローしており、教員と協働で行うべき質保証活動に結び付きにくい。(3)学生の成績レベルの範囲が広く、的が絞りにくい。(特に基礎学力が不十分な学生が多い。)(4)人事考課制度がないため、教育・研究活動について公正・正当な評価がされていない。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・学生の基礎学力不足と実現のためのやる気のなさ。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・入学生確保のための活動に重点がおかれ、課外時間での学生フォローが十分でない。高校時の基礎学力が十分でない。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・それが業務の一部だと認識されていない(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・入学者の確保が優先されているため、基礎学力不足の学生が入学している。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・入学者のレベルがあまりにも低い。教員を教育で評価しない。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・全入学的な受入れ状況で基礎学力がないため、大学教育そのものが出来ない。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・妨げになるようなことはありません。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・教育活動に熱心に取り組んでも評価が低い、給料など。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・教員の待遇の低さ。教員の質の低さ。教育環境の悪さ(機器が不十分)。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・この大学には個性を大切にしようという方針があり、賛同している。しかし、入学者のレベルに差があるので、個々に対応しようとすると時間がかかり、合理的に質を維持、確保することは難しい。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・熱心に取り組む教員に仕事が増え、研究や論文に対する時間が全くない。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・AO入試でも入学生の減少傾向が続く中、留学生の入学が、増加している。留学生の質が概ねよくない中で日本語教育等専門教育以前のことで今後、課題となりそうだから。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・大学組織として各教員相互間で教育目標が調整されていないため、学生に対する段階的な教育効果が十分に発揮できていない。学生に対する成績評価の基準が学内で十分に調整されていないため、学生による授業評価を意識して教育内容が安易になったり、不完全となっている。地域連携を新たな事業プロジェクトにしても、全体の協力が得られない。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)
- ・教職員や学生の意識(の持ち方)に差がある。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)
- ・評価をする側に相応の見識があるのかが疑問。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)
- ・学生の学習意欲・知的好奇心が極端に弱い。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・①ごく一部の教員が教育の質の維持・向上にとりくんでも、大半の教員の授業で、それが否定されるような教育が行われている。結果、まじめな教員は学生に人気がない。受講者数が少ない。②高校までに身につけているべき知識を身につけていない学生が大半であるため、大学レベルの授業が困難。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・学生の成長に無関心である教員の存在。学生のレベルの現状を見ずに、「過去の大学」での学び方、学生像にこだわり、一方的な授業しかやらない教員の存在。学生ひとりひとりを見ていない(見ることもできない)ので、「何がどこでつまづき」がわからず、サポートの仕方もわからず。などの複合状態。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・基礎学力や生活習慣、性格の面で大学への準備が出来ていない学生が多い。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・学生の質の差が大きく、個々への対応が難しい(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・教員の認識不足(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・“自主性を育てる”ことの難しさと重要性が理解されない。何でも数字に現れる結果を求められる。何でも“それが何の役に立つのか”と、即時的即物的解を求められる。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・入学時の学力の低さか、一定レベルの力に上げて卒業させることを難しくしている。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・「教育の質保証」をどこに求めるのかはむずかしい。経済的に余裕がない家庭の学生がムリして一人暮らしをしていたり、学費を苦面しているため多くの学生がアルバイトをしている。バイトが大変で勉強の時間が確保できない学生が少なくないこと。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・給料の低さ(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・目標が、教員、職員の中で共有されていないこと。学生の学力の幅が大きすぎて対象が絞りきれないこと。有効なカリキュラムが編成されていないこと。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・(教育活動に熱心に取り組んでも、それに見合うだけの評価が得られない。)←コレ！。そもそもの教員のやる気がない、興味もない。よりよい仕事をするというイシキがない。人・物・金・情報のリソースがない。経営スタッフも興味ない。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・学生募集の対外的なP.Rのため、就職と教職に力を入れて片よった教育をしている。そのために、課外で試験対策の授業がある。「●●●●」の授業では、学士だけで論文など研究経験のない先生が担当し、単位化している。教職に至っては、学生勉強のための専用部屋を作り、過去問をさせている。(本質的な学問とは程遠く、ペーパー、面接対策で教員になるとは考えものだ)(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・学生の質(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・留学生の中には、生活習慣教育環境の違いから、学習習慣や学習レディネスが十分ではない学生がいる。少しずつ指導を行っていくが、一般の日本人の学生もそれに感化されてしまう面があるように感じる。例、グループ学習・発表学習の経験がない留学生。学習中での私語・振るまい。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・旧式の教育でよいと考える教員の存在(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・受講生のレベル差。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・事務的な仕事の多さ。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・高校卒業の質保証がほしい。入試が機能せず、ほぼ全入状態のため。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・発達上の特性がある学生や精神的問題を抱えている学生に対する教育に困難性を感じます。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・入学してくる学生の質の問題は大きいと思います。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・教育の質保証に取り組んでいるが、学生のニーズ(関心、意欲、学力etc)とのマッチングが難しい。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・入学者の学力のバラツキが大きいため授業の焦点が絞りにくいため。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・学習面で課題を有する学生に対し、就職試験等に向けた個別学習指導を行っているが、他の業務も多く、十分な時間確保ができない。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・取り組む上で、時間的・人力的余裕がない。他の教員から協働の姿勢が見られない。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・経済的な理由等で、バイトをしている学生が多い。また、遠距離から通学している学生も多く、ゆつくりと学内で授業外の補習や自習を受けたり、したりする時間がとれない様子である。必要最低限の課題をこなすのに、精一杯の感じがする。(資格、免許を取得する学生が多く、授業数も多い)(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・学力や学びに対する意識が低い学生の割合が増加していること。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・授業のコマ数及び種類が多すぎて、一つ一つの授業に専念することが困難(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・個々の意見を集約し、それを具現化するための体制が十分に整えられていない印象があります。(個人レベルの取り組みにとどまっている)(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

・Kost and Benefitの問題(例を含む)。的外れ、研究者擬きの教員が居る。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)

・大学、学部レベルでの教育の質保証という課題に対する意識の低い教員が一定数いるため。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)

・専門職の養成に関わっているが、そちらの教育を行っている基礎的な教養等まで手が回らない。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)

・定員確保のため誰でも入学させている状態(50%以上80%未満、BF、社会科学系)

・(教育活動に熱心に取り組んでも、それに見合うだけの評価が得られない。)←これもあります。入学時とは異なる力をつけて卒業させようと言うが、具体的にどのような力かを決めようとはしない。そこは、各教員任せとなっている。よって、独自に考え、ルーブリックを設定し、学生に示しながら評価を個別に行っているという状況である。組織的に決めようとはしない(ただし、上から決まったことは降りてきます)。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)

- [illegible]

- ・様々な基準は設定されているが、現実の学生の水準からみて不適切なものが多く用を成していない。基準を厳格に適用すると入学者はいなくなってしまう。すなわち、質の保障の防げとなっているのは、経営であり、文科省の政策である。なお、本学では社会福祉士などの相談援助職を育成しているが、成績の良い者が必しも良き援助者になれる訳ではない。貴プロジェクトの本アンケートはその点で学力偏重の前提が要件として設定されてはいまいか？(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・問4 1) 2) の設問に関係して、学生の力の幅が大きく、基準をどの辺りで設定すればよいか、教員間の考えの違いも大きくなかなか方向性が定まらない。個々の教員が各々努めていると思うが、成果が見えてこない。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・学力の差(学生の)。留学生の日本語レベルの低さ。教員の業務量の多さ。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・教員の多忙さ、人材不足(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・教育の質を担保しようとするとなんだけの時間をかけないといけないのと、個別対応になり対応に手間がかかるため。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・学部間における教育活動の格差と学生の能力差に伴う教員の負担の増加(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・チェック機能がないのでやる気が出ない(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・客観的スコアリング・システムの未整備(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・ごく一部の教員についてですが、論文等の業績を貯め、早く、他大学(偏差値の高い大学)へ公募異動しようとして、教育活動や業務を怠る者、もともと力がなくて、従って、教育や業務にも熱心でなく、ただ居続けようとする者、等々。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・すべて①とした理由と根は同じですが、各教員の自由裁量にまかせるしかない部分が大いことが妨げとなっています。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・教育活動以外の業務が多忙であること。通信インフラの整備不足で細かな点に無駄が多い。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・学内業務の過多により、質について考える時間があまり取れない(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・部活動により、学生の学修時間がけずられること。工夫改善しても、効果が得にくい。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・学内の共通認識の欠如(各自バラバラに取り組んでいる)。統一的なシステムがない(各自バラバラに取り組んでいることと関連して)。高等教育機関としての経営側の自覚。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・大学教員の独自性(尊重)(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・オーバーコマの専任教員が多く学生のフォローアップに時間が割けない。一部資質に問題のある教員(含非常勤)がいる。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・教員の取り組みの姿勢についての問題がある、積極派と消極派。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・学生の基礎学力の低さ。教員組織の一体感のなさ。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・全学的に教育改革に取り組むと表明していても、結局は教員一人ひとりの努力として押しつけられるし、それを正に評価されたこともない。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・入学者選抜のあり方(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・教育に対して向上意識の低い教員が多少いる。しかし、そのような教員は、特にマイナス待遇を受けることはない。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・教員全体に認識の統一がはかられていない(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・教員数の不足(専任)。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・理事会の大学不理解ならびに経営能力、センスの低下。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・教員の十分な時間的確保(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・学生の学習習慣や基礎学力の不足(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・入学者の定員不足という現状の中、ある程度教育の質向上に対しては目をつむらざるを得ない。学生の質低下だけではなく大学教員の教育者・研究者としての質が低下している中で教育の質保証を実現していくのはむずかしい。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・AO入試(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・マンパワー職員の知識、スキル(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・保守的な考え方を経験則から生じた良い考えとしてとらえている教職員が上の立場にいる事。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・学部(学科)と学校法人との間で教育の質保証に対する考え方(方針)が異なる点(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・そこまで手がまわらない程、低学力学生への対応に時間を要する為。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・ほぼ全入である。学習困難学生が多い一方で、能力の高い学生も一部あり。(偏差値帯が大きい)国試受験レベルに引き上げるのは大変(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・妨げは感じない。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・1、学生の積極性、努力性、忍耐力などの欠如 2、看護学部ですが、理系の学問を多く学習しなければならないという覚悟がない又は、それが必要な要素であることを理解していなく入学して、後でびっくりしている、学生や保護者が多い。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・募集人数の50%未満の学生しかいない。(定員不足)(文系学部30%以下)(50%以上80%未満、35、保健系)

- ・学生により高い教育をしようとすると、教授が足を引っばる。学生を質の低い方へ暗黙のうちに誘導している。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・学生の基礎的な教養、看護学生としての態度がなかなか整わず、質の高い学風ができあがっていないこと。(●●●なので)(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・例と全く同じ。学長が週1回半日しか出勤せず、教員の教育活動に興味関心もなく教育の活動の程度を全く知らない。ある一部の人からの片寄った情報でしか判断しない。「形」があれば「質」は問わないという大学(学長)の姿勢があり、「頑張った人が損をする」という風土になっている(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・上司と評価感が異なる。教育上(内容)も合意が得られない。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・入学生(高校生)の減少に返して、看ゴ大学の増加及び入学定員増加がみられるため。●●で、駅から遠いなど条件が悪い大学では、どうしても基ソ学力の低下及び学習習慣がないばかりでなく、態度的にも問題な学生を受けざるを得ない。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・熱心にとりくんでも、評価されない。又、領域ごとのへだたりがある。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・入学定員確保が第一優先され(経営重視)入学者選抜が不十分である。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・教育活動に熱心に取り組んでも、それを阻害する力が働らく。上層部は何ら理念を持たない。金儲けしか頭にない。末端の教員は自分の専門を教えること及び雑用で手一杯である。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・教員の質が低い。教員が勉強していないので、学生を教えることができない。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・入学定員の確保の為に形骸化した入試。留年、退学者を出してはいけないという風潮。講義レベル、内容に責任をもたない教員。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・評価されない。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・専門学校から大学へ昇格させたので、唯一の目標は国家試験に合格させることのみ。入学者の●割強がAO、指定校推薦、強化スポーツからであり、ペーパーテストの受験を経験していない。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・若い教職の先生がそれに見合うだけの評価を受けていない。ボランティア活動が多くみられる。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・認証評価へ対応することが主眼となっている。上層部の教育に関する見識が低い。「教員中心の教育」であり、シラバス上でも到達目標と評価が合致していない科目が殆ど。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・まだ教員間の意識が統一されていない。学生間のモチベーションに差がある。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・努力があっても、評価されない。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・教員が大学教員としてトレーニングされていないこと。専門学校出身や、修士レベルの教員が多く、臨床経験や研究経験が少ないために、現代社会で必要なことが教えられない。そのため、学生のレベルに合わせて低レベルの教育がなされ、現代社会(私たちの分野では医療現場)のレベルを知らないままに卒業していく学生が多い。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・研究が充分できていないので、教育へ還元できない。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・建学の精神もDPも形骸化しており、教育の質を保証しようと考えている役職者、理事がいない。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・教員によって研究に重点を置き過ぎている者がおり、教育の質保証に関する全学的なコンセンサスを得ることが、必ずしも容易ではない。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・学生の勉強に対する意欲。教員の意識。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・特になし。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・難問を時間をかけて解いた経験のある学生が少なく、長時間考えないと解が見出せないような問題を出題した場合、多くの学生が早い段階で解答作業を放棄する。(勿論、時間内に正解を提出する学生も存在する。)最近では、上記のような問題を出題する場合、小間に分割し段階的に解答させる事により学生のモチベーションを上げている。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・学生の資質がそのレベルに達していない。教員の技量やカリキュラムでは引き上げきれない学生比率が常に半数近くある。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・基礎学力の不足した学生と学力のある学生とを両立した授業の遂行(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・予算削減により雑務が多すぎる(事務職員のリストラ)。仕事が特定の教員に集中する。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・学生の考える力、基礎学力の欠如。教員の業務の煩雑さ。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・留学生が多く、学力(日本語能力)や、社会に出た後に必要なコミュニケーション能力の達成度を確保するのが難しくなっている。＊時間にルーズ、約束を守らないなど(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・例えば問5の学習習慣や態度などは教育方法や評価が難しい。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・Jabee認定に消極的なこと(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・教育の質保証をすれば、卒業できない学生が増加してしまう。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・学生の能力は低いのだと決めつける考え方を持つ教員の存在。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・学生の質のバラツキ(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・教員の負担(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・入学時の学力レベルの差が大きく、到達目標が設定しにくい。教育に熱心でない教員の存在。(50%以上80%未満、35、理・工学系)

- ・大学は自由な発想で学ぶところである認識を持っている。近未来的な目標・夢の発掘やその模範的な例題(指導する教員)を参照して、少しでも近づける努力をするところであり、その発端を見出すことが大学の使命である。上述した通り、基礎学力や学習習慣の乏しい学生を受け入れているため、高校の延長で済す傾向が多々見受けられる。そのため、本来の基本的な使命が四散してしまい、一つの悪循環が罷り通っている。まず夢ありき、夢のある集合であることの認識を植え付け、自己の人格の中に醸成すべきである。教員のやるべきことが自ずと定まってくる。また、これは学生とともに保護者も引っ括めるべきである。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・教育活動は評価にふくまれない(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・質保証をどの程度まで行うか、こちらが設定する基準に、どのように教員が努力しても無理なレベルの学生を、定員確保のためという理由で入学させている傾向があり、私の所属する学科でも約1割の学生が、そのようなレベルです。選抜入試の意味がなくなりつつあり、授業の内容をより平易なものに落とすにも、単位を認めず留年、退学へと進ませるにも限界があり、悩むことが多々あります。定員充足率が低いと補助金カット、という国の政策が、文教政策上、弱者切り捨てとなる忌々しき問題と思います。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・学生の理解力に差が大きいので、質保証を意識した授業の効果が見えにくい→熱心さが薄れる。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・評価の甘い授業が多い。分野によっては仕方ないが出席しているだけで合格できてしまうなど。義務教育レベルを理解せず勉強もしない7年目8年目の学生について「合格させちゃえば？」と平気と言う教員がいる。定員を気にしすぎて入学させている。学科によっては落とそうとしない。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・教員は質を上げるべく努力しているが、学生に勉学意欲がそもそもない。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・①定員割れが常態化しており、経営上の理由で基礎学力が不足している学生でも受け入れざるおえない。②教員の中には、学生のレベル低下に対応せず、昔からの講義を毎年繰り返すだけの者がいる。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・入学者の学力が低い。積極的な姿勢の欠如。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・大学運営に係る時間が多い(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・学生の熱意、興味をいかに持たせるか、高校までの基礎学力の達成が必要であり、「教育の質保証」以前の問題がある。大学での教育にふさわしい内容を達成しようとする、学生がついていけないということで、授業評価結果もたいへん悪くなる。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・大学の方向性がはっきりと決まっていない。どうゆう大学を目指すのかが共有されていない。評価の基準がない。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・入学定員を満たせていない状況により、入学者を選ぶ基準を低めに設定せざるをえない。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・例については同意です。学生による授業評価があり、レベルの低い内容ほど授業評価が高い場合もある(一概には言えませんが...)。教育の質保証とは、下位の学生がついてこれるレベルで授業をすることなのか？それとも大学として最低限のレベルを維持した授業をすることなのか？上位の学生の教育の質保証ができなくなりますし、難しいです。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・学生確保に結びつかない。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・教育の質保証が教授の自由の侵害として多くの教員に拒否されること。運営に携わる管理者側が教育の質保証について理解を共有していないこと。第2の点に関わるが、教育の質保証の施策を実行できないこと。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・教育方針が統一されていない点(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・学科のカリキュラムポリシーに量的・質的に位置付けられていないために、アドホックな対応となっている。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・定員を確保するため、問4の1) 2) の様な傾向の学生も入学させているため。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・学生が経済的に苦しく、アルバイトにたよるざるを得ない学生が混在すること。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・選択問題となっていたので、限られた項目からしか選ぶことができなかったのですが、本専攻の学生の状況は問4の通りのため、問1、2共に④であるが、成果は全く得られていません。積極的に取りくんでも、実現できないことの原因としては、定員割れをしているために、どんな人でも受け入れており、ほぼ個別指導が必要な程の学生(小学5年生水準)に対して忙しいために講義内でしか指導できないことに感じています。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・取り組んでも評価が得られないだけでなく、取り組むだけの人的資源や余力がない。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・資金の低さ。研究費(含授業経費)の低さ。学部としてのまとまりのなさ(学科で分断されている)。図書館、IT環境の悪質さ。事務職員の職能の低さ。高齢な教員の年齢構成。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・[1]そもそも“教育の質保証”の必要性を認めない教員がいる。(その内容は、たとえば①それは学生の問題で、教員が考えることではない②もともと大した学力がなく、卒業後も責任ある地位には就かないだろうから、“教育の質”を云々する必要はない、など)[2]学部の性質上、定量的な評価が難しい。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・学生の実態と取り組んでも、なかなか成果があがらない。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・教育・研究に対する積極性が欠けている。学部・大学存続の危機感の無さ。→改革への取組の立ち遅れ。(小生は●●から●●●を任せられ、●●にやっと全学のFD委員会を立ちあげたところです。今後、教育活動の活性化を図るべく努めているところです。)従って、殆ど零からの出発と言ってもよいでしょう。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・教員の意識の差が大きいこと。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・教員の高齢化が進み、意欲等を高めることができない。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・質保証のために教員(一部)は疲弊している。学生もそのために自由な時間が無い。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・インターンシップやキャリアサポートが授業より重んじられる傾向がある。学習者中心を悪用し、ろくに授業をしない教員が増えている(アクティブラーニング)。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・教育について科学的・学術的な知識を持たない教員が多いこと。離退率が上がることで大学の評価が下がるかもしれないことをおそれる空気があること。(50%以上80%未満、35、人文科学系)

- ・教員に対する評価基準が、対外的PRにのみであること(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・入学形態によるが、一部の学生の基礎学力・学習習慣・学習レディネスに問題がある。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・校務の多さ(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・入学生の人数の減少で、学生の質が低下(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・まず“教育の質”そのもののとらえ方を再考する必要がある。教育の質に対する文科のとらえ方は、計測可能なものに限られる。しかしながら、教員による評価に対する厳しさのちがいが、学部・学科のちがいが、授業観のちがいがなど、教育活動は多様であり、公平性の実現は困難であり、それを追求することによって“質”が画一化する面がある。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・学生の理解力の不足。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・3ポリシーで基準を設定しても各教員が具体的にそれを共有し、各授業の中で実現するために議論したりする時間がない(授業、学生指導、委員会などに追われる)(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・特になし。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・入学時の基礎力不足。学生の経済的不安によるアルバイト等にかかる時間の過多。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・基礎的な学力の低下。教員同士の共通意識が薄い。教職関係の専門の教員が少ない。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・教員の能力自体が大学教育を担うほどのレベルにない。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・教員同士の共通理解不足(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・質保証のレベルが分かりにくい。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・基礎学力が不十分なため、教育効果があがらない。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・なし(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・入試選考の段階で、入学させても教育体制ができていないレベルの学生を受け入れざるを得ない経営状態。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・教育理念や質の保証に関しては、対外的には、意識され明示されているが、具体的指導方法や効果の成果は、各教員にまかされている。全学的取組みとしての客観的評価の基準や測定はなされていない。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・学生の能力にかなりのばらつきがあり、基準点を決めるのが困難と感じる。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・「教育」は研究業績と別で、評価されない。教員によっても、温度差がある。学校事務作業が多過ぎる。理事長の価値観。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・各担当だけがとりくむのではなく、全教職員が同じ方向を目指して取り組む必要があるが、統一されていない。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・大学の組織や構造が非常に硬直化しているため、新たな提案等への取り組みが困難であること。また、教員採用の規程が明確になっていないため、教員としての質の維持が担保されず、保証する段階にまで至っていない。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・基礎学力のレベルが両極端な為。(例えば日常会話もままならない留学生など)。入門レベルの講義ですら、その水準の確保が難しい。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・学校全体で目標や基準が掲げられているわけではなく、教員個人にゆだねられている。又、教員の力量もかなり差がある。そもそも小学校～高校までにかけて必要な学習能力を有せずに大学進学をしている学生が多い。またそのような学生を受け入れざるを得ない大学の懷事情。教育や研究以外の業ムが多く(広報、キャリア支援など)負担が大きい。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・教員や職員の(自分の)大学に対する自己評価の低さ。どうせ、うちの大学は、うちの大学なんか・・・という意識が学生に伝わる。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・教員間の意識の差が大きい(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・定員われの地方私立大学。日本語がほとんどできない留学生をたくさん入学させる。＝講義・ゼミが成立しない。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・教員間の意識の格差。教員間の仕事量の格差。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・教育活動に対する評価の低さ。DPを達成するために必要な教員の不足。パッチワークのように作られた教員配置。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・大学に入る前の段階の、小中学校の知識も身についていない。社会的マナーが身についていない。学習する姿勢が身についていない→授業がはじまっても、机の上には何もなし(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・教員の質。(知識と教えるスキル)(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・仕事が増えすぎて、オーバーワーク。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・教員間での意識レベルの違い。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・学生が多く資格を取得できるようになっているため、目的を十分に絞りきれていないことが否定的影響を与えているかもしれない。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・●●●●で、教員自身の看護基礎教育がばらばらでいまだ、厚労省指定規則にしばられている教員が多い。教員が高齢化しており、新しいことに取り組む意欲にやや欠ける。(50%以上80%未満、37.5、保健系)
- ・FD委員会がもっと積極的に動いてほしい。(50%以上80%未満、37.5、保健系)
- ・開学して●年目であり、少しずつ整備されようとしている段階です。教員1人1人は問5について意識して取り組もうという姿勢はあるものの、組織としてはまだ十分にまとまっていないように思います。(50%以上80%未満、37.5、保健系)

- ・定員充足が先決であるため、学力の低い学生も入学してきている。その学生の対応に時間が裂かれていることが大きい。(50%以上80%未満、37.5、保健系)
- ・教育の質保証をどのように行うか具体的な基準、評価が決めていないし、決めようとしても、どうすれば良いのかわからない(50%以上80%未満、37.5、理・工学系)
- ・文科系学部と同じキャンパス内で授業を行う体制には学生の視野が広がるメリットもあるが、勉強しなくても卒業できる学生を目にすることで自分も楽な方に流されるデメリットがある。(50%以上80%未満、37.5、理・工学系)
- ・学生の学習態度(「めんどろな勉強より簡単に単位を取ればいい」というような考え方)(50%以上80%未満、37.5、理・工学系)
- ・成果指標の設定が難しい。(50%以上80%未満、37.5、人文科学系)
- ・変化しつつあるところと考える。まだ、わずかではあるが、自己の研究(業績)にのみ関心を持つ教員がいること。(50%以上80%未満、37.5、人文科学系)
- ・学生の定員確保が第1義で、その中で教育の質を向上させ、出口保証を行う、というのは教員の共有認識であると思う。しかし、「著しい欠如」ではなくとも基礎学力の底い学生は一定数おり、そこを飛躍的に向上させるのは難しい。(50%以上80%未満、37.5、人文科学系)
- ・特になし。(50%以上80%未満、37.5、人文科学系)
- ・私自身が授業として取り組んでいることではないが、1、2年生の段階で、文章作成などにかかわる分野の指導、3年生では、職業について実務をしてゆく上でのキャリアサポートの授業などがあり、そうしたことは大学で勉強、研究してゆく上で、一定レベルの質保証にはなっていると思う。(50%以上80%未満、37.5、人文科学系)
- ・改革に無関心、あるいは無責任な教員の存在(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・学生の質に対するあきらめの気持。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・入学者の学習習慣や学習レディネスの著しい欠如。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・学生の基礎学力、学習習慣の欠如。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・教育活動に対する正当な評価(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・本来「保証すべき質」、これは当然公開が前提となるが、大学として外へ出す以上は「あるLevel」を意識せざるを得ない。この「質」と現実の乖離がしばしば見られる。その結果基準が、あいまい、極論すれば出たらめがまかり通る事になる(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・質が相対的であるため、何を保証すれば良いのか不明確である。レベル(→全国での共通した概念がない)を下げればいくらかでも保証できる(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・小規模●●大学により事務局スタッフ及び教員の絶対数の不足により、取り組みが形骸化する傾向にある。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・教育スタッフ(教員、職員)の人数不足(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・全学的な取り組みになっていないこと。質保証の定義が、大学と社会(企業)との間で、ずれがあること。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・すべての科目について、質保証を行うには、科目数が多すぎて学生がそれぞれの科目内容を身につけるための時間が全く不足してしまう。求めること自体が非現実的であること。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・(教育活動に熱心に取り組んでも、それに見合うだけの評価が得られない。)←まさに、この点が該当します。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・“質保証”という概念にとどまっている。具体的にアクションを起こせる指標or基準がナイ。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・教職員の連携が少ない。学生のレベルを正確に把握できていない。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・教育面での学内評価に学生の授業アンケートが利用されており、単位をプレゼントするような教員が常に最上位の評価を受けている。スポーツの学生を多く受け入れているため、学年内での学力の幅が大きくなり、彼らを落第させすぎない程度の講義を行う必要がある。また、スポーツ関連の学生は実業団等の専門分野の知識や技能が不要な職に就く比率が高く、モチベーションが低いために他学生への悪影響も大きい。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・授業の持ちコマが多い(半期で7、8コマ)ので、すべての授業のすべての学生に対して十分に時間を費やすことができない。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・教員間で意識の落差がある。発達上の特性をもつ学生やグループ活動の不得手な学生などへの対応のむずかしさがある。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・基礎学力不足(学生の)とそこから生じる好奇心や学習習慣の欠如によることが多いように見られる。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・運動部目的の学生が多い為、専門外のことへの取り組みが鈍く感じられる。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・スポーツ活動が盛んであり、スポーツ特待生が多い。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・教員間での質保証に対するコンセンサスがとりにくい。(ガバナンスやリーダーシップのなさも関係している。)(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・大学としては積極的に「教育の質保証」を行っているが、それに見合った成果が出ていない。そのため教員の中には意欲を失っている者もいる。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・現在言われている教育の質保証によっては、社会からの大学の評価が上がるとは思えない。志願する学生が増えたり、入学生の質が向上したりということがリンクしていないと感じる。したがって、取り組みを求められる教職員にムダな努力をしているという意識が生じがちである。もちろん、取り組みの意義は理解しているが、それによって処遇が向上したり、研究環境が改善されたり、教育(授業)がやりやすい学生が集まったりすることはないであろう。(マスコミ等のあつかいにもよるが)。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・基礎的な教養・知識が低いこと。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・学生の質にバラツキが大きく教育がむずかしい。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・学習障害(LD)と入学後医療機関で診断された学生などもいて、質の保証を問題にしたら永遠に卒業できないなど(80%以上100%未満、BF、社会科学系)

- ・各々(教職員)の意識の低さ。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・やる気のない教員がいる。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・大学管理・運営、各報告、評価対応など直接教育、研究に関わらない業務が著しく増えているため、教育の質の向上のための研究研修等に取り組む時間を圧迫している。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・入学者の質自体が低く定員割れしているので、入学させざるを得ない。そうすると、学生に合わせた講義をせざるを得ない。また、授業アンケートをとっているが、それが学生の人気票のように扱われ、人気とりの講義になってしまう。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・10数名の少人数ゼミ・クラスに留学生が2〜3人おり、日本語の理解力に差がでている。そのため、一定以上のレベルに上げるのが難しい。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・厳密に行くと単位未取得学生の増大。教員の仕事量の増大。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・補助金ありきでその支給水準をクリアするために実施している感が強く、実際の学生の質との釣り合いが取れていない場面が多々あるように感じる。学生のパソコンスキルが低い。特に初期段階の科目で、専門外の科目を受け持たされるケースが多く、どうしても「専門家」に比べれば、適切な教育ができていているという自信が持てない。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・入学者の学力不足。退学・除籍の防止。入学定員充足の優先。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・学生の基礎学力の欠如、学習習慣の欠如、勉強法の不知。リメディアル教育が不十分(しかし、実施したとしても学生の取り組みは熱心ではない)。定期試験のやりっ放し(単位修得にしか学生は関心がない。大学としてもふり返り学習を行い、リテラシーを向上させるべき)。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・教員の教育に対する考え方の相違(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・不明(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・何割かの教員が教育活動に熱心に取り組んでも、それが全教員に共有されていないため。成果が得られないことが多くあります。一部の教員の個人的資質の問題だと考えています。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・自ら学ぶ、という意識まで持っている学生は2割を切る印象であり、大半は、与えられる課題をこなすレベルが精一杯である。高校までの学びの場との質的な違いを意識していないように思われる学生が多い(真面目であっても非常に受け身で内面的に幼い)。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・一部教員の抵抗。一部学生の無理解。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・全学的な意思決定に関わる部署・責任者の理解が薄い。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・質保証に熱心になり、学習レベルを上げようとすると学生がついてこられなくなり、退学率が上がる可能性があるため、本腰を入れられない。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・定員を埋めることが最優先され、系列高校から無試験で一定数の学生を入学させている。その結果、中学生レベル以下の学生が入学してしまう。その原因は学校法人の理事長、大学の学長と事務局長であり、彼らが大学の教育の質保証を積極的に妨げている。また、その構造を指摘・是正する大学教員はきわめて少なく、そのような良心を持つ教員は差別人事を受ける。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・学生の内情が多岐に渡っており、個別の対応が困難。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・非協力的な教員の存在(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・学生の学ぶ姿勢がついていない。学力がそもそも低い。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・形式的な作業が中心。経営上基礎学力が不足している入学者も受け入れざるをえない実態との矛盾。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・教育活動に熱心に取り組んでいる先生とそうでない先生との差が激しい。教育活動・支援など組織化されておらず、教員のボランティア活動で時間外の労働を行なっている。また大学側もそれに対する評価が低いように思われます。頑張っている先生ほど、燃え尽きたり、病気(大病)になったりしている現状がある。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・特にない。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・柔道整復師になりたいという強い意志や柔道整復師という職業に対する知識がない学生も、スポーツ推薦で入学してくるため、彼ら彼女らの修学意欲を高めることが困難です。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・学生自身の基礎学力が低いこと。同じクラスに基礎学力が高い者と低い者が混在していること。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・サークル活動との兼ね合い。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・教育に対する評価システムが無い、あっても曖昧である。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・学生の学力幅が広い(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・アスリートの育成のための時間・エネルギーがともすれば教育の質保証を圧迫しがちである。(試合の準備練習が授業や模擬試験集中講義よりも優先されがち)(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・学生自身の反応が得れない(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・入学前の学習習慣の不足(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・意識の統一がなされていない(教員間で差がある)(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・教育〇動には熱心にとり組んでいると思っている(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・少子化の時代、私学系の大学の場合、基礎的なレベルが低い学生も入学してくる。(80%以上100%未満、35、保健系)

- ・定員確保できないため、基礎学力の低い学生や不本意入学者が多いため質の保証というレベルまで持っていけない(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・教員(大学)の意識の問題(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・教員の質の悪さ(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・教員数の不足。低学力者への教育に力を入れると業務が追いつかない。学生間の基礎学力の差が大きく、どのレベルを基準にすべきか悩むことが多い。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・研究活動や教育に熱心に取り組もうが、給与に反映される訳でもない。取り組んでいない意識の低い教員が仕事をしないため(できない)熱心な人にばかり負担がかかる。しかし、それを評価されない。つまり、やってもやらなくても変わらないということになる。古い体質、実績評価でない。マンパワーが足りず行き渡らない。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・諸事情によりやむなく受け入れた学生の指導に時間がかかり成果が出ない(国試不合格など)場合。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・留年率を気にするが由に、再履習させたくない教員。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・教職員の質保証にまず取り組むべきことが先決だと思っている。教員数が常に不足しており、学生に関わる時間が短い。授業の準備で終わってしまう。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・法人の経営と学生募集(経営が厳しいので、学力の低い学生を受け入れそれに見合う総合的な教育に関わるマンパワー不足)(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・教員の数が不足している(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・最低限身につけさせるべき知識・技能・態度等についての取り組みは様々に行なわれているが、明確で具体的な基準というものはない。何をするかは決まってい、それをどこまで徹底させるかは、担当者に任されている。理解度・習得度の確保には、教員による学生の学修成果へのフィードバックも重要であるが、教員の業務と質保証を目指した対応とのバランスが難しい。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・大学の経営や存続のために、基礎学力や看護師としての資質が欠如していると思われる学生を入学させている。そのため、入学後学力の差が大きく、低い学生に労力がかかり、高い学生のレベルアップを図る教育に手が回らない(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・教員の人数が足りていない。常にマンパワー。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・トップダウンでもボトムアップでもない大学執行部のビジョンのなさ指導力のなさ。一部の教員の個人的努力だけではどうにもできない。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・大学の理念や目標を定めても、そのレベルに学生を持ち上げるために非常に時間がかかる。もしくは、能力的に無理がある学生がいる。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・領域の教員が全領域の実習指導あり。時間的に余裕がない。領域に質を保証するための話し合い等が充分でない。全領域を見ることで、視野は広がり、その中で領域を見れる利点もあるが、そこまで達していない。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・教員の傲慢な風土、職員の士気を潰す風土。悪口を語り合う教授(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・例)教育活動に熱心に取り組んでも、それに見合うだけの評価が得られない。→同感。上司(教授)の考え方が柔軟性に欠け、自分の考えを押しつけてくるので改善〇言う気を欠くことがある。また上司にフィードバックしにくい雰囲気がある。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・入学の基準が、一部の人の意見で変更され、変更することについて話し合うこともない為「教育の質」という言葉は共通理解されないまま、学生を受け入れている状態ととらえている。助成金の獲得など、目的が、教育から離れたところに定められており、学生をどう育てるかという視点は欠けている。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・入学者のほぼ1/3が高校教育の内容をほとんど身に付けていない。高校卒業の基準があまりに低すぎる!!(特に●●県内の高校教育のレベルが非常に低いと感じられる)(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・系列高校や指定校推薦で入学してくる学生が基本的な学力が不足している状況で入学させてしまう事。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・高校(中学)での勉強不足。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・基礎学力が著しく不足した学生(指定校推薦等)への対応。教養部が無く、基礎学力が不足した学生への対応が十分に行なえていないこと。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・教育活動を熱心に行なっても、学生が答えてくれない者がいるため、やってもムダと思っている教員もいると思われる。昇格等においては研究成果を求められ、教育に対する評価は少ないことも問題である。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・授業を良くしようと努力しない教員が学科に数名いる。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・留年学生数の割合を一定にするべきとの文科省の事実上の指導(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・学内の委員会等の業務がかなりある。授業のコマ数が、かなり多い。(1週間で9コマ等)したがって教育(研究)にあてる時間がきわめて少ない。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・本学は開学から●●年目を向かえ、開学時に着任された先生方が退職されるピークを向かえています。相対的に若手の教員の方が教育に力を注いでいる印象です。本学の偏差値も開学当初は国立レベルだったそうですが、徐々に低下して現状に至ります。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・学生の質に依存する。全般的に扱うため、教育の質に差異が出る。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・学生のレベルの差が大きすぎて、取り組みが難しい。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・学力差があまりに大きい。学生の自己学習時間が不足している(やらされての学習習慣が身についていて、自から学ぼうとしない)。将来の話は〇〇を持って聞かすが、目先の学習については、特に苦手な科目には手をつけようとし(逃げる)。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・「成果はどうであれ、4年間勉強した人だから卒業させてあげよう」という考えの教員が少なからずいる。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・工学部の●●●●系ですが、学生の中には学習習慣がなく、年間の単位が取れていても、卒業期の国試が取れない学生が多い現状です。(80%以上100%未満、35、理・工学系)

- ・現在、全学的に取り組み中。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・学生の基礎学力の欠如。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・事務作業の多さと煩雑さ。手がかかる学生への対応(多くが家庭環境に由来する)。教員を減らすことによる仕事量の増加(持ちコマ数は10年前の倍)。運営に60歳以上の高齢教員があたっている。男女比も考えられていない。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・よくわかりません。(80%以上100%未満、35、人文科学系)
- ・学生のニーズが多様化する一方で、学内での業務は増加しており、教育の質保証を実現するための十分な時間を確保することができない。(80%以上100%未満、35、人文科学系)
- ・かつてよりは、教員評価の際に、教育の占める割合が、増えてはきている。しかしながら、やはり「研究」が評価の決定的なところであることには変わらない。大学の教員であり、研究が肝要であることは当然であるが、研究の成果が教育に還元されるとも限らない。研究重視が流れができて以来、教育についての教員の共通理解が得られにくくなっている気がする。それが組織としての学部学科の教育力向上一授業の質保証の実現を進める際に立ちはだかっている気がする。教育でも研究でもない「雑務」的な業務が増大していることも、教育の質保証への取り組みができにくいことの原因でもある。(80%以上100%未満、35、人文科学系)
- ・雑務に追われすぎて、なかなかとりくめない(80%以上100%未満、35、人文科学系)
- ・評価にむすびつかない。(80%以上100%未満、35、人文科学系)
- ・教員に教育、その基盤となる研究をするやる気がない。学生に非があることでクレームを出せば教員が悪くなる。必然的に学生にクレームの出るような課題を出せず、学生を持ち上げ、楽をさせるだけとなっている。(80%以上100%未満、35、人文科学系)
- ・教員の意識の不十分さ(80%以上100%未満、35、人文科学系)
- ・教員の意識の高低。例えば、FDも積極的に活用しようとする教員もいれば、仕方なく義務感で参加する人もいます。授業評価の活用に積極的な人もいれば、そうでない人もいます。(80%以上100%未満、35、人文科学系)
- ・大学経営(経済面)の安定性に対する不安感。大学経営改善のため、専任教員の補充が滞っていること(専任教員の不足)(80%以上100%未満、35、人文科学系)
- ・①大学教育を受けるレベルに達していない学生をうけいれている。②教育効果が余り見られない。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・●●●のため実態に合った、質保証と設置書類上の設計に乖離が出てくる。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・自発的に学習(予習・復習)をしない。工風を要する。内容・質は維持しつつ、分り易く教える。→それでも、ついて来れない人が2、3割出る。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・学部・学科内でも分野が異なると互いに考え、意見の交換ができなくなる。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・教員における教育の質保証の意味について十分理解されていない。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・ただの補助金目当てでやってるにすぎない。文科省がうるさい。学長が救いようがないくらいバカ。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・業務多忙(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・入学の段階がほぼボーダーフリーであるため、現実的に質保証は難しい(大学での教育のみで、「学士」といえるレベルに引き上げるのが難しいという意味です)。退学防止や経営上の配慮から、求めるレベルに達していないからといって、落とすことも難しい(もちろん、ほとんど出席しない学生などは落ちますが)。教員間での「教育」に対する考え方の違いもあり、「質」に対する考え方が異なる。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・教育プログラムの点検・評価が不十分:「授業評価アンケート、アンケート結果の開示、課題、改善点など教科ごとに開示しているが、その状況・結果に対する評価体制が不十分なため教員間に格差が生じている。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・教育の質保障に関する理解の不足。本学部は資格付与を重視している。国家試験の合格が必要であり、その点の教育の質が重視される。又、就職先も大学での教育を問れない傾向もある。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・学科DPに基づいて教育の成果を全体として把握する評価システムの欠如。(直接評価と間接評価をどのように組み合わせて、評価すればよいのかなどについて方法論が確立していない)(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・特になし(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・事務部の力。(教務課職員の力量不足及び各〇員間の連携の悪さ)(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・入学してくる学生の基礎学力や学ぶ意欲に対して資格取得のために学ぶべき内容が多すぎる。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・教員間での「教育の質保証」が重要視されることへの認識や関心の温度差(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・教育活動について教員間で温度差があり、学生が敏感に感じとられている。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・保証を示す客観的なスケールが今のところ作られていないことではないか。また作ることは難しい面もあるので。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・質保証の目標が明確ではない。手法(アクティブラーニング等)は求められるが到達点が不明確。会議等の運営業務に多くの時間をとられている。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・学修成果の可視化に際して、成果を数量化することに対する心理的な抵抗感。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・教育活動に熱心に取り組んでも、それに見合うだけの評価が得られない。関連して、他教員の学生への態度(子供扱い、あなどり)、研究・教育へのモチベーション(低い)、仕事のスピード(遅い)感が自分とは異なる。(80%以上100%未満、35、社会科学系)

- ・教育の質保証に向けての活動に関する具体的評価がない(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・教員間の温度差があり、足並みが揃わない(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・アスリートをめざす学生が多い、学科によっては、スポーツを重視しているものもあるため。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・質とは何か？実現とはどのような状態か？以上が、人によって異なる。基準により明確化しても、その解釈が異なる。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・わたし自身は何の妨げもなくやれています。なかなかそれを実行できない場合の理由として・・(授業形態(大講義室での授業)から無理とを考えてしまう。一人一人に対応する必要はあると思っても、一人の教員では無理。同じような理由です。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・学生の学力や学ぶ姿勢のバラツキが大きい。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・例にあるのと同じこと。教育大学と言っているが、教員の評価(昇格などの)は研究実績中心。校務負担が多い。明確な基準(数字などの)、目標がない、かけ声だけ。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・「質」の意味や具体的な事項が不明確で、それを「保証する」とはつまり、学生や大学がどうなっているのか、も不明確なこと。しかしながら卒業生は、おそらく、教員よりも、企業に適応していることはまちがいないので、ますますわからないこと。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・定員の充足に係ることが、より重視されている。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・できる学生とそうでない学生の格差が大きすぎる。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・教員間の温度差がある。モデルとなるものが抽象的。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・分野(学位の分野は、●学科で合計●分野)が多岐に渡っており、焦点を絞りにくい。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・学生の基礎学力の不足が問題である。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・一部、非協力的な教員もいる(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・定員割れを防ぐ為に、大学で学ぶだけの基礎力・資質に欠けると思われる学生でも合格させざるを得ず、学生全体の質の上下幅が非常に大きい。また、教育活動を熱心に行うことは、非常に時間、労力の負担が大きいことにつながるが、その点についての評価がされているのかどうか不明である。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・校務分掌に多くの時間をとられる。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・少子化の進む中、大学として定員を確保するためには、入学者の質にはある程度目をつぶらざるをえない。教育活動の成果が見えにくい。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・専門職を目指す学生の育成という割には、学生に甘いのではないかと感じている。例えば試験の採点基準や実習等の採点等。一定の基準に達していない学生を無理に引き上げる必要はないと感じている。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・入学定員の確保に重点をおいている。卒業させることに重点をおいている(留年を出さない。GPSを上げること)(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・昔からの慣習ですすめていること。教育活動の改革が行えない。しがらみでの入学生の受け入れ。(学力が十分に伴わないに関わらず指定校などで入学してくる)学部教育や職業に対する上層部の無理解。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・教育活動に熱心に取り組んでも、評価が得られない。カリキュラムの問題を抱えている。学生の質、レベルの問題(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・感情的な評価を下す人物が、評価をする側にいるため。気にいられなければ評価は得られない。領域が異なる人に意見をすることを許さない文化。一部の人のパワハラの言動→教員が定着しない(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・学生に幅がある。教員は変わらない。教育活動に熱心に取り組んで→取り組んだ結果、成果を上げるには教員と学生の一体感が必要。ある一定の一体感を保てないと、見合う評価は得られない。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・文系教員と医療系教員の間に、ミゾ(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・学部長交替等に伴い、全体を見通し発言する教員が不在。イニシアチブを取る教員がいない。いても少数、問題意識がない。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・教員のマナー・倫理(特に学生に対するハラスメントの自主規制力)。大学教育を看護学が克ちとってきた歴史認識の未熟、要は教員の質。大学レベルの教育ができず、テキストに頼り臨床に直結する教員が増えすぎた。専門学校化？(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・事務関連職員を含めた教職員の資質。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・一部の教員のみで行うことになり、業務の公平性に欠ける。教員が熱心に取り組んでも学生が熱心にならない。(教員の取り組みが十分ではないからかもしれませんが)(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・教育活動に対する評価があいまい。教育活動に必要な研修やセミナー、勉強会参加などの支援(資金)はない。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・●●●●を迎えていないにもかかわらず、教員の退職が多くあり、欠員の領域がある。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・評価されようとは思わないが、教育活動に熱心に取り組んでも職位の高い教授の保身や感情、気分による判断、学生への言動で台無しになることが少なくない。学生評価の基準がよくわからない、ブレる、変わる。危機感を持った新任の教授の取り組み等に旧来の教授が抵抗する等。パワハラ、モラハラが横行し、ハラスメント対策が機能していない。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・FDがほとんどない。上層部の体質がなみなである。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・専門職の大学ゆえに、自分達の学域を言語化、見える化することからはじめないといけな。業界全体の取り組みが必要である。(80%以上100%未満、37.5、保健系)

- ・入学選抜方法が適切ではない。理由①学生を集めることが第1になっている為②専門職の養成であることから基礎的な教養より専門分野に長ければよいという考え方がある。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・専任教員の中での温度差がある。さらに外部の講師による授業を学生たちが軽視する傾向があり、授業運営に支障が出ることもあった。できれば専任教員で学部や大学の事を理解した上で授業を展開できる体制が良いと思うが、難しい。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・学生指導に多くの時間を要して、他の業務の圧迫につながっている。入学生の学力の質がどんどん低下している。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・医療従事者を養成しているが経験不足からかプロフェッショナルリズムの不足(欠如)による受身傾向が強い。テストの点数を取るためにいっしょうけんめい。答えのみを求め覚える勉強しか出来ない学生が多い。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・雑務に追われる。担当する講義数が多い。教授の考えに左右される。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・マンパワー不足。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・元々目的を持って入学していない学生も居るので、その意識を変えるのに時間がかかる。(80%以上100%未満、37.5、理・工学系)
- ・教育の質は学生の質によって左右されると考えられる。(80%以上100%未満、37.5、理・工学系)
- ・実習において、1学年の定員数に対し、実習室の広さがせまい。(80%以上100%未満、37.5、理・工学系)
- ・教員の意識統一の欠如。やる気のない教員。コミュニケーションの欠如(教員同士)。(80%以上100%未満、37.5、理・工学系)
- ・特になし(80%以上100%未満、37.5、理・工学系)
- ・慢性的な定員割れによる事実上の全入のため、教育自体や対象学生への熱意を持ってない教員が一部で存在する。(80%以上100%未満、37.5、理・工学系)
- ・教育活動に対する教員間の熱意、意識の違い。教育活動に対する評価制度がなく、熱心に取り組めば取り組む程、一部の教員にのみ、業務が偏り、研究時間の確保ができなくなる(その結果、業績評価(研究のみ)まで低くなる)。(80%以上100%未満、37.5、理・工学系)
- ・既定の評価アンケート等はあるが教育活動に熱心に取り組んでも、それに対する大学側の評価がない。(80%以上100%未満、37.5、理・工学系)
- ・事務の仕事を教員に求めるので、教育や研究がおろそかになりがちである。事務方が教員のすべき職務を理解していないように思える。(80%以上100%未満、37.5、理・工学系)
- ・学生の基礎学力の欠如。大学生として身につけるべき知識・技能・態度の基準が明確でないこと。(80%以上100%未満、37.5、理・工学系)
- ・入学者の学習習慣や基礎学力と各科目の目標に差がありすぎる。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・質に見合った学力が受講生に欠けていること。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・学習習慣や学習レディネスについては学生課に専門のスタッフがおり、学生も教員も折にふれ連絡、活用しているため。基礎力向上のために週末などに補講を行なっている。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・上層部の理解不足(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・著しく多様な入学者に対して、どのように教えるかという問題に対応しきれていない。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・定員充足の必要上、重度の発達障害や知的ボーダーラインと思しき学生も、毎年一定数入学させざるを得ず、単位認定や卒業要件を厳しくすると、留年者、ひいては学習意欲の低下による退学者が大量に出るおそれがある。(新聞記事程度の文章の論理をたどれない、一斉指示が入らないレベルの学生が、少数とはいえ毎年コンスタントに入学してくる。)学科内の教員の間でも、「何が保証されるべき学力なのか(内容、定義、基準)」について、コンセンサスがない。教員の専門分野や年代、研究者としてのバックグラウンドによっても見解が分かれるし、最後はプライドのぶつかり合いになる。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・よくわからない。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・明確な基準が設定されていない(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・資格不要の学科から理解が得られない(基準を下げるよう圧力がある)(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・特段見当たりません(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・クラブ活動と優先的な入学者確保が教育の質保証の妨げとなっている。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・問3にあった教員間の共有が70%は高い値なのかもしれないが、温度差が大きくあり、一所懸命頑張っている教員と無感心な教員がいるように感じられる。また、それらの意見交換が少ないため共有できないでいる。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・まさに例)の通りです。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・授業における学生評価の統一性。規則が少ない。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・他教員の意識の低さ。学部や学科教員が「協働」してはじめて成果が上がると思われるが、意識のある教員が各学科・学部1～2名しかおらず、孤立、孤軍奮闘状態。習慣がつみかさなり、努力しない「身体」が構築されていると思われる。(制度＝組織のありかたがそれをさらに裏書きしている・・・)(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・学部事務が設置されておらず、事務作業に取られる時間が著しく多い。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・入試形態の多様化による入学生間の格差(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・事務作業が多い。各種委員が多い。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)

- ・学内委員会の委員の仕事が忙しい。委員の仕事とは、学内の管理・運営の業務。学生の学習意欲の欠如。授業中、スマホをいじっている学生が多い。(80%以上100%未満、40、社会科学系)
- ・入試による選抜が骨抜きになっている(学力がほぼなくてもスポーツで入れてしまう)。入れた学生は4年で卒業させないと大学としての評判が人気落ちるとの理由で、どんなに勉強しない学生でも卒業に影響するような形で不合格は事実上出せない。担当教員が納得できるレベルになるまで教員がエクストラな時間を割いて補習的な事をするか、目をつむって合格させるかしが選択がない。すると結局、どの教員も学生がレベルに達してなくても単位を出すようになってしまう。大学が個々に質保証に挑むのは限界がある。国内一斉にやらないとできないだろう。授業時間の1/3を越えて欠席なら試験受けない学内ルールがあるが、そもそも1/3というのが多すぎ、ゆるすぎ。(80%以上100%未満、40、社会科学系)
- ・事務的作業の多さ(80%以上100%未満、40、社会科学系)
- ・定員割れを防ぐため、問4に該当する学生でも入学させているため、一定水準を保てない。(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・？(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・教員の共通認識不足(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・教育備品が十分に整っていない(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・大きな問題はないが、一部には親(保ゴ者)からのクレームがある。(単位不認定について納得しないなど)最終的には了承を得ているが。(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・忙しさ。業務の量。(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・一部の推薦入試(特にAO)の学生受け入れ。本学部と競合する同じ県内医療系学部の多さ一偏差値の低下(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・(2人の教員を除き)ほぼ全教員が教育に熱心に取り組んでいるが、一学年●●●名という小規模大学のため、絶対的なマンパワーが不足している(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・個々の教員の負担が大きく、十分な時間を割けない(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・教員不足(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・教員のマンパワーが少なく、その中でも、積極的に教育に取り組む教員が約半数であるため。大学の委員会活動等での時間が多く、教育にかける時間が減っていく。(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・たくさんの業務のため、難しい部分がある(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・教員、専務局員の少なさからくる時間的不足(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・教員の入学前の学生の学習経験に関する情報不足あるいは、それに対する対応方法に関する知識、技量不足(マンパワー不足も含めて)(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・勉強意欲が少ない学生が多い。勉強する習慣が身についていない。講義の内容を理解できる基礎学力が不足している。(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・教育の質保証の実現に向けて準備する時間が大きく不足している。(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・大人数の受講者(100名以上)。クォーター制(4学期制)による実験科目のレポート提出困難。研究のみが評価される教員間の空気。教育を主たる仕事とする教員への差別。(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・入学者の多様な実態を考慮した教育指標になっているとは思われない点(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・設定された基準と学生の学力との乖離(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・教育活動をいくら行っても、毎々、低学力の学生の入学者増が続いている。(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・教育が研究の逃げ道に、研究が教育の逃げ道になっており、両方とも熱心に取り組む教員を評価していない。(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・基本的に学生の学習意欲がないことが問題である。教育の質を高めようとしても学生が見向きもしない。そこが一番の妨げである。(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・基礎学力が非常に低い学生が多い(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・改善にとりくもうという意識の欠如した教員(専任教授などある程度年齢の高い60-70才の人達)の存在が抵抗している。(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・学内業務の過剰＜マンパワー不足(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・「質」とは何を指すのか全くわからない。自ら良いと感じるものを学生達に伝えていくのみ。価値観を統一しようとする行為そのものが、人類社会のみならず、生物に対する見識の不足である。(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・事務仕事が多くて時間がとれない。大学側が質保証に関するいろいろな仕組みを作ることによって、さらに時間がなくなる。(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・教材開発の為に時間が十分に取れない。(事務的雑用が多すぎる)(100%以上、BF、理・工学系)
- ・学力レベルがあまりにも低い者まで経営のために入学させている。その時点で質保証ができない者が多い。(100%以上、BF、理・工学系)
- ・入学させた以上は何が何でも卒業させろという圧力、ダメな者をダメと言わせない環境(100%以上、BF、理・工学系)
- ・学生批判するばかりで、教育しようしない教員、「もう定年だから」と口に出し、モチベーションのない老害者が存在する。高い給料の替りに、元気のあるポスドク2名を入れてほしい。(100%以上、BF、理・工学系)
- ・質保証を厳格に実施すれば、大半の学生が留年、もしくは、退学となる可能性大となり、大学の経営が成立しなくなる。(100%以上、BF、理・工学系)
- ・教員数に比し、多すぎる学生数。(100%以上、BF、理・工学系)

- ・基礎学力の欠如している学生のモチベーション向上させることの困難さ。また、対応する時間が限られること。(100%以上、BF、理・工学系)
- ・教育の質保証のしくみがまだ十分に機能していない。(100%以上、BF、理・工学系)
- ・大学教育に適応できない水準の学生を入学させていること。広報活動等に労力を割かれて、教育に手間がかけれられないこと。(100%以上、BF、理・工学系)
- ・全体的な危機意識の共有の欠如等(100%以上、BF、理・工学系)
- ・この4月から勤務していますのでよくわかりません。(100%以上、BF、人文科学系)
- ・教育の質として、古く、退官が10年内の教員にやる気が見られず、変更、変化、改革といったものに対する抵抗感が強く、妨げになっている。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・学生の指導に力を入れるより、論文実績の方に注力する方が自分の将来のためには有利。学生の指導は実績にならない。評価もされない。学生の指導に専念すると研究をする時間がとれなくなる。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・成長する何らかの意思を持っていないと思われる学生に、成長しようとする意思を持つように態度を変容させることは、極めて困難であるが、経営的視点から主導されざるを得ない入試と、受け入れた後の教育とのギャップ(アドミッションポリシーとカリキュラムポリシーとの乖離)が課題となっていると考えています。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・入学者の質向上を図るため、教育・入試・経営の一体改革に取り組み始めたが、まだ歯車がかみ合っていない。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・基準を設け厳格化すると、卒業できなくなる学生が多数出るおそれがある。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・教育の質保証について、例えば基礎学力(高校レベル)だけでも幅が広い。このため、全てを網羅して「基礎学力はある」という状態に(1年生のうちに)できるかという、それは難しい。これは入試のレベルからして当然のことと思われるが、網羅的な基礎学力を求める教員がそれなりの割合でいるため、教員間での意識の相違がさまざまな対策の妨げになることがある。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・入学時点での水準確保。必要なら不可として離学も問わないというスタンス。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・学生の意欲と教育的成果(100%以上、BF、社会科学系)
- ・学内行政等により、授業準備時間が確保できないこと。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・熱育についての評価はほとんどない。個々の熱意に任されていて、全体としての動きになっていない(大半の教員は努力していると思うが、相互の情報共有など全学的な制度は整っていない)(100%以上、BF、社会科学系)
- ・教員全員の勤務形態が特殊であり、学生と向き合う時間や授業外で個別指導できる時間と場所が極めて少ないこと(100%以上、BF、社会科学系)
- ・単位認定のイージ化競争が教員間で起きている。例えば、筆記の定期試験で、予め問題を教えろとか、参考書、教科書、プリントの全部持ち込み可とか●●●●●、●●●●●と称して内容は中学から高一レベルの試験をやっているなど。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・教員の側のあきらめ(100%以上、BF、社会科学系)
- ・特に無し(100%以上、BF、社会科学系)
- ・事務と教員のズレ。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・学生の基礎学力のそもそもの欠如(100%以上、BF、社会科学系)
- ・日本語レベルが著しく低い留学生(100%以上、BF、社会科学系)
- ・スポーツを中心とした推薦入試が多く、学力及び学習態度が低い状態の学生が多い。PBLなどの特色あるプログラムを用意しても、スポーツ系の学生は部活動で多忙を極め、成果が十分にあげられない。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・学習意欲が欠如している学生を受け入れている。部活動に偏って、学習を疎かにする学生が多い。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・授業準備時間が十分にとれない。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・過度な資格取得偏重主義により、学部教育における質保証が二の次となっており、通信講座(U-CANなど)レベルの学習が良しとされているため。専門学校と変わらない。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・一部の学生の学習意欲の欠如。授業妨害と呼べるレベルの授業態度の悪さ。担当学生数の多さ(数百人から、教員によっては千人を超える)。教室設備や教学システムに投資しない法人。教育の質の捉え方・考え方や評価基準が教員ごとに異なり共有されていない。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・教員間で意識の温度差がある。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・教育の質を保証するためには、成績評価を厳しくすることが最も効果的であると私は考える。しかし、成績評価を厳しくすると、学生に忌避され、成績評価が甘い教員の授業を選択するようになってしまう。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・受験者数の減少(100%以上、35、保健系)
- ・私個人としては、大学側が“教育の質”を気にする必要はないと思っている。(100%以上、35、人文科学系)
- ・中途退学防止策と矛盾する(100%以上、35、人文科学系)
- ・教員の大学業務の忙しさ、時間的余裕の無さ、マンパワーの不足(100%以上、35、人文科学系)
- ・教育質保証のデータエビデンスのなさ。GPAのインフレーション、就活、大学の教育についての理念がすべての教員に認識されているわけではないところ、など(100%以上、35、人文科学系)
- ・定員確保のため、あまりにもレベルの低い学生を入学させている。(100%以上、35、人文科学系)

- ・ほとんどの教員にやる気がない。(100%以上、35、社会科学系)
- ・専門科目によって、求める基礎学力が異なる。例)経済学理論→数学。経済史→語学力、一般的教養。(100%以上、35、社会科学系)
- ・教員(専任)補充が適正に行なわれていない(100%以上、35、社会科学系)
- ・一部の教員が協力・努力をしない状況を改善する手段がない(組織が分権的すぎる)。その結果、良い提案がなされても改革につながらない。教員一人あたり学生数が多すぎるため、努力の効果に限度がある。一部の教員は個人レベルで教育の質保証に向けて努力しているが、組織全体(特に大学全体)では逆行する意思決定がされる場合が多い。(100%以上、35、社会科学系)
- ・かなり具体的にとりくんでますので妨げは、上層部の意思決定以外はありません。(100%以上、35、社会科学系)
- ・私も含めて、大学で進めているシラバスのルーブリック化の意義をいまひとつ確信できていない教員が多いように思える。(100%以上、35、社会科学系)
- ・そもそも大学生の資格のないレベルの学生を多数入学させている。(大学の採算上の理由)(100%以上、35、社会科学系)
- ・問5にあるように、DPについてのルーブリックや、各学修成果に対する目標がまだ定められていない。(100%以上、35、社会科学系)
- ・特待生とその他一般学生との間の学力差が著しく大きいこと。(100%以上、35、社会科学系)
- ・入学する時点での基礎学力レベルが低い学生の多さ。中・高でつまずいたままとにかく大学へ行かせてしまう風潮のツケが出ている層＝受皿なので。(100%以上、35、社会科学系)
- ・教職員の間でのコミュニケーション不足(100%以上、35、社会科学系)
- ・大学で学ぶことに対して意義を見出せない一定数の学生の存在。学習能力等の問題ではなく、大学における学問に対してその重要性を認めないという姿勢の方の問題です。[この問題は偏差値に関わらず各大学で一定数発生しているのではないかと私は考えます](100%以上、35、社会科学系)
- ・意識・モチベーションの低い学生から高い学生まで、幅が広く、すべてを質を保持しながら対応するのは限界があるため。(100%以上、35、社会科学系)
- ・学生の基礎学力の低さ。学生の学修意欲の低さ。(100%以上、35、社会科学系)
- ・教員個々の意識化が十分でない。(100%以上、35、社会科学系)
- ・積極的に取り組む必要性を感じていないから(100%以上、35、社会科学系)
- ・専門分野の異なる教員集団により構成されるため、評価尺度(感覚的なもの)がそれぞれにおいて異なること。各教員における業務負担が過重であり、新しい教育システム、考え方を取り入れようとするところまで手が回らない。(100%以上、35、社会科学系)
- ・教師間の意識の違いが考えられる。教育、保育の養成に関わっている人は意識は高いが、それ以外では、そうではない。(100%以上、35、社会科学系)
- ・入学者レベル。学習成果、習得度評価のシステムが利用しにくい。教員への評価が見えない。(100%以上、35、社会科学系)
- ・業務多忙のため、時間が不足。(100%以上、35、社会科学系)
- ・基準が設定されていない。実現すると、卒業できない学生が出てくる。(100%以上、35、社会科学系)
- ・教員はやるが多すぎて時間がない。学生(の情報)を管理するシステム(電子上の)が整備されていない。(100%以上、35、社会科学系)
- ・教員の学生に対する諦観(100%以上、35、社会科学系)
- ・学務が多すぎる。定員確保のため、基礎学力の低い学生を受け入れると、教員の負担が増加し、研究が進行しにくくなる。(100%以上、35、社会科学系)
- ・統合に伴い受講人数の多い授業がある(100%以上、35、社会科学系)
- ・教員と法人？経営側との学生受け入れ(入試)制度の目の相異(入試コスト・効率・区分・方式・内容(科目))(100%以上、37.5、保健系)
- ・クラブ活動が最優先になってしまっている。(100%以上、37.5、保健系)
- ・入試方法(AO入学者の増、反対に一般入試者の減等の問題)。基礎学力。特に数学、生物の低下。(100%以上、37.5、保健系)
- ・学生アンケートによる教員の評価(学生にとって簡単に単位が取れる授業が評価が高いなど)。事務職員との意識の差、熱意の差。(100%以上、37.5、保健系)
- ・教官間の協力に教育しようとの意識の欠除。(100%以上、37.5、保健系)
- ・基礎学力の低下。学習習慣のなさ。社会的協調性の低下。(100%以上、37.5、保健系)
- ・教員数が少ない為教員の雑務が多すぎて取組みに限界がある。(100%以上、37.5、保健系)
- ・教員間で共有されていない。個人の教員にまかされている。(100%以上、37.5、保健系)
- ・教育活動が正当に評価されない。年功序列での評価。(100%以上、37.5、保健系)
- ・教員の質が保証されていない。人員不足。(100%以上、37.5、保健系)
- ・教員間で意識統一がなされていない。組織のトップが明確な指示を出していない。取り組みの成果を客観的に評価する仕組みがない。(100%以上、37.5、保健系)
- ・学生の学習意欲の低下や学力の入学前からの不十分さもあり、授業の進め方にも方針の定めにくさがある(学力上の学生にあわせた授業をするか学力下にあわせるかなど)。また学力の低い学生が多いと国家試験合格に向けた取り組みを日常的に行う必要があり、建学の精神というより国試合格が教育の基準となってしまう。教育のアウトカムが国試合格となってしまう傾向があり、他で教育活動の評価をしたとしても、〇〇的なものではないような、〇〇〇大学教育なのかといった考えに至ることしばしばである。(100%以上、37.5、保健系)
- ・学生の定数確保のために学力の低い学生を入学させざるを得ない。(100%以上、37.5、保健系)

- [illegible]

- ・他の業務(管理運営、大学院)が過重なこと(100%以上、37.5、理・工学系)
- ・(教育改革の取り組み全体が進んでいない。)教員の高齢化が最大の妨げになっている。(退職に近い教員は改善に消極的である。)(100%以上、37.5、理・工学系)
- ・学力が不足する学生が多すぎる。また、このような学生を入学させないと大学の入学定員を確保できない可能性がある。(100%以上、37.5、理・工学系)
- ・学力の低い学生を見放すわけにはいかない為、彼ら中心の授業内容や進める速度になり、優秀な学生へマンパワーがさけない。(100%以上、37.5、理・工学系)
- ・質保証に向けて取り組もうとしても、学生の意識が変わらない。組織として本気で実現に向けて取り組もうという姿勢がみられない。(100%以上、37.5、理・工学系)
- ・座学より実践的な学習が(例:研究活動、自由研究等)に教育効果、学習意欲の醸成に有効であるが、「大衆化」のため、多人数対象、答え有りき教育になってしまう。多忙であり、学生一人一人への濃度の高い教育が出来ていない。(100%以上、37.5、理・工学系)
- ・特にないと思う。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・教員数の不足。事務職員の不足。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・教員間どうしの人間関係が良くないので、全く横の連絡がとれない。また教員どうしがお互いを尊敬、評価していない。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・教員が、教育の質保証の意味を充分に理解しているとはいいい難い。なぜ質保証が急務なのかを理解している教員が少ない。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・教員が事務作業(事務職員のすべき仕事)に忙殺されているため。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・教育活動に熱心に取り組んでも、印象評価以上の具体的な評価が得られない。特に事務方の人員不足で、事務的な業務に教員も関わらざるをえず、雑務が多く時間がとれない。若い学生たちの興味・関心に共感できず、心の交流がむずかしくなってきた。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・特にない。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・取り組んでいる最中ですので、まだ妨げを強くは感じていません。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・学生がバイトに忙しくこちらの要望に対して対応できない場合が多い。学内の委員などが忙しく、授業の準備がしっかりできない。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・教育を学生に行う前に、生活や学習のための状況を学生に整わせる必要がある(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・学生の経済状況(アルバイトによる勉強時間の減少)(時間外の指導はできない)。教員の多忙感(人員削減によるコマ数の増加、事務業務の増加)(実際に、指導のための時間確保ができない)。基礎力の指導が十分できる専門の教員がいない。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・全学的な連携体制が整っていない。執行部の決定の意図が教員に伝わってこない。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・科目によって教員の指導力にバラつきがある(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・大学全体としての意識の共有が不十分である。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・学部間がタテ割りで、ヨコのつながりが無いために、効率的な方法が取りにくい。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・学生の興味、関心に応え、ふさわしい学習量を課するのが、学生の充実感につながると考えられる。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・共通科目の割合が多いか? 専門科目を学修させる時間がもう少し必要。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・校務、アドミンの業務、行事、委員会、リクルートetcに忙殺され充分な授業準備の時間が確保できない。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・教員間の基準が完全に一致しないため、どちらかというと低い基準が全体的な基準になる傾向があること(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・意識が低い(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・個々の教員の意識が異なる(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・1年目なのでよくわからない(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・いそがしい。(行事、委員会、学生指導、授業、研究指導)(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・入試の方法。教育活動よりも学内政治に力をいれている教員が多く、教育は2の次になる傾向。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・資格(社会福祉士)優先のため、専門学校とあまり変わらない。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・資格を取るための教育を行っており、忙しいが卒論指導など学士教育の質も担保しなければならない。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・1教員に対する学生数が多く、個々の学生の状況把握やニーズが分からない。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・教育活動の成果が人事評価に反映されない。課外(資格の補習や学生向けコンテスト)活動がコマ換算されない。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・そもそも「教育の質保証」という概念がおかしい。なぜ、大学だけに求められるのかも分からない。幼、小、中、高で「教育の質保証」していますか…? 不適切な外部行政に研究者が乗っかるのは…!?(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・科目数が多いため、非常勤講師への依存率が高く、方針を徹底することが難しい。具体的な到達目標を設定すると、それを達成できない学生が単位を落とし、退学率、留年率が上がる。質保証をするためには、卒業試験のようなものを実施した方がよいのだろうが、学部では卒論も単位化しておらず、ゼミの教員の裁量にゆだねられている。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・大学設置基準に合わせるため、無理に長く授業時間を取り、結果、学生が疲労している。また、細かいシラバスを公表しすぎたために、「長くて読む気がしない」とシラバスを読まない学生が大半になっており、これも円滑な授業のさまたげになっている。(100%以上、37.5、社会科学系)

- ・質の保証を学生が望んでいないこと。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・パソコンが十分に無い。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・学生の私生活まで立ち入ることは困難(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・学生のことがわかってないと、教育の効果もあがらない。教員の側も研究してないと、教育にも反映できないし、自分の専門以外にもたくさんひき出しを持ってないといけない。教員の力量がないと実現の妨げになるのだろう。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・教育に熱心に取り組むことと、科研等研究で成果を上げることどちらも求められる(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・ST比が高く、一人一人の学生に指導できる時間が限られる。教員間での指導方針にバラツキがありすぎて、共通の尺度で考えることができない。初年次教育などでも、どの教員にあたったかでかなり指導内容や学生が〇〇〇げられる能力に差がある。また、学生指導についてもかなりの差があり、雑談に終始あるいはそもそも相談に取り合わない教員がいることも問題であると考えている。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・例)教育活動に熱心に取り組んでも、それに見合うだけの評価が得られない。←その通り。だめな教員がいても解雇できない。教員を教員が「殺す」ことはしかねるから。大学内に裁判が発生するような状況には学部・大学として耐えられないから。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・学部レベルとスタッフレベルでは「設定」されている。学生レベルでは、その「設定」を消化できる層とできにくい層がある。背景には、アルバイトにとられる時間が多い点。又、就活に注ぐ時間コストが大きすぎるということがあります。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・学生はアルバイトで、教員は校務で、授業時間外の指導があまりできない。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・学生の能力やキャラクターの多様性にたいする対応(100%以上、40、保健系)
- ・学習意欲の低い学生及び精神的問題を持つ学生への対応が年々難しくなっている。教員の自己啓発能力の低下。(100%以上、40、保健系)
- ・学生数の増員はあるが、それに見合った教員数ではなく、実習と学内授業のどちらも行っているため、学生と十分に関わることは難しい。(100%以上、40、保健系)
- ・資格取得を目指す医療系大学であるが、一般教養の軽視が感じられる。専門学校でも同様の資格取得は目指せるため、大学としての意義は一般教養にあると思うが。(100%以上、40、保健系)
- ・教育活動への理解度(研究活動が評価され易)。予算。(100%以上、40、保健系)
- ・授業に対する学生評価の良し悪しについて。大学全体で分析検討されている。また、そのデータを元にして学長表彰なども行われている。学生の評価＝教育の質保証でないと思われるが、教育の質をはかる指標を見つけることができない。(100%以上、40、保健系)
- ・事務的業務が多すぎて、教育活動に費す時間とエネルギーが少ない。一部の教員が非協力的(あるいは妨害してくる場合もあり)であり、それへの対処に時間を取られる。(100%以上、40、保健系)
- ・教育の質がすべて、国家試験合格率という尺度でのみ論じられる。(100%以上、40、保健系)
- ・入学者数の担保のため、入学時の質の低下。(100%以上、40、保健系)
- ・専門職の養成大学であるため、必須科目が多く、基礎科目がおろそかになる傾向のあるため。(100%以上、40、保健系)
- ・出勤時の打刻(出勤管理)状況を事務が勝手に変更する。土曜日の出勤をできる限りしないように指導が入る。学力の差にひらきがあり過ぎるため、個別対応が必要となるが、対象学生がつかまりにくい、又教員数も足りない。(100%以上、40、保健系)
- ・大学組織内における教員への教育外業務の割合増。中・高等学校における不適當、もしくは不十分な教育と評価による学生の学習に対する意識や質の低下。(100%以上、40、保健系)
- ・バイトに熱中する。←学費が高い。AO入試で入ってしまう。(100%以上、40、保健系)
- ・教員間での指導方針が共有できてなかったり、考えが大きく異なっている点。(100%以上、40、保健系)
- ・学習面、生活面での問題を抱えている学生のアセスメントができない。もしくは、問題を抱えている学生への支援に積極的でない教員がいる。研究実績、研究者としての能力は高いが、組織的な取り組みに対する関心、学生に対する関心が薄い教員がいる。(100%以上、40、保健系)
- ・自身のモチベーションの維持とその努力不足もありますが、学生に努力する要素がなければ落ち込みます。(100%以上、40、保健系)
- ・学生数(定員)増員に伴い、基礎学力の低い学生が入学すること。教員間で取りくみに差がある。(100%以上、40、保健系)
- ・授業評価:きちんと教えるが、学生の単位を落とす教員の評価がよくない。→大学当局は、教員の教え方が悪い。熱心に教えない。→教員の評価が悪い、となる。(100%以上、40、保健系)
- ・管理職者のエゴ、独断、編見など。(100%以上、40、保健系)
- ・上層部の考え方。(100%以上、40、保健系)
- ・自己評価システムを入れているが、学生の入力率が悪い。自己評価以外にもWebやメールで様々な学生アンケートをとるため、煩しいと感じている学生が多い印象。また、学生には直接的なメリットがないことも大きな要因。(100%以上、40、保健系)
- ・教育に対して積極的でない教員の存在。研究業績に比較し、教育活動の評価基準が不明瞭。(100%以上、40、保健系)
- ・教員間のコンセンサスが得られていない。学生の基礎学力レベル(例えば日本語の理解や文章力)が低すぎる。「社会人としての態度・マナー」等は、具体的な指導に乏しく、見せていくしかないが、受け手である学生には、どのように、またどの程度伝わっているかが見えない。(100%以上、40、保健系)
- ・第2志望にきている学生が1/4ぐらい1学年にいたり、目的意識のない学生がいる。医療系なので国家試験を受け合格しないと、意味もないなか、4年生になっても本当の意味での受験モードにならない。(100%以上、40、保健系)

- ・教育活動と研究活動に対する考え方(価値観)に隔たりが大きい場合の関わり方。教育活動に、熱心に取り組んでいる特定の者に仕事量が偏る傾向が強い。(100%以上、40、理・工学系)
- ・教育活動以外の事務的な仕事。(100%以上、40、理・工学系)
- ・基準の考え方は十分な時間と考察が望まれると思います。一般化に向けた考え方に困難を感じることが妨げになっていると思います。(100%以上、40、理・工学系)
- ・取り組みに必要な時間が確保できない。(100%以上、40、理・工学系)
- ・教育の質保証のための学習プログラムを実施しているが、大学からの評価が低いと感じられる。(100%以上、40、理・工学系)
- ・教員側からは妨げになっていることは無い。強いて言う、入学時の学力を上げるのに4年で上げることができるレベルまで上げているため、学生の時間が足りていない。(100%以上、40、理・工学系)
- ・大学がどのような教育を目指すのか、意思決定・統一がなされていない。必ずしも、専門性の高い教育が是とは限らないし、むしろそこにこだわっていたら、目の前の学生全て(ではないかも)が、落ちこぼれてしまう。目の前の学生を見て、彼らに必要な教育をすべき。(100%以上、40、理・工学系)
- ・授業評価アンケート以外に指標がない。授業評価アンケートでは、学生にとって都合が良い(楽、出席が必要ないなど)授業が評価を得る傾向にあり、教育の質と本質的に異なる。(100%以上、40、理・工学系)
- ・学生の質の問題が大きい。授業についてこれない学生が多いため、授業のレベルや評価基準(試験問題の質)を下げざるを得ず、それにより少数ではあるが、一定数いる能力とやる気のある学生のモチベーションが下がるという悪循環。(100%以上、40、理・工学系)
- ・入学試験を受けずに、推せん等で入学する学生が半数程度いて入学頭初は学力に大きな差がある(100%以上、40、理・工学系)
- ・入学者数確保の偏重。教員の諦めと新たな取り組みの欠如。(100%以上、40、理・工学系)
- ・学部・学科間の横ならびの意識が、上位職者(学部長以上)に強く、学科の独自性が出せない。経営サイドの考えで、学生に対する評価基準を厳しくできない。(100%以上、40、理・工学系)
- ・卒業前又は留学前の単位の安易な付与。(100%以上、40、理・工学系)
- ・文科省が標準としている教員数／学生数比や、授業コマ数／週が、教育の質をより保証しようとする合わず、教員の時間不足、人員不足、疲弊などが足かせとなる。(100%以上、40、理・工学系)
- ・各学生の状況に応じて、個々の対応に時間をかけないと質保証にはつながらないと思いますが、そうやってかけた時間や労力を評価する仕組みはなく、教員の自主的努力に頼るということが多いように思います。(100%以上、40、理・工学系)
- ・入試制度(年内合格者が多すぎる)(100%以上、40、人文科学系)
- ・初年次導入教育の具体的な科目が設定されていない。(100%以上、40、人文科学系)
- ・専門でない授業を持たされること。(100%以上、40、人文科学系)
- ・留年や退学を減らすという方針は間違っていないのですが、あるレベルに達してない学生を進級させる、卒業させるということが起こるかもしれません。(100%以上、40、社会科学系)
- ・教員一人当りの学生数の多さ。留年率、四年卒業率の向上、退学率の低下に向けた経営側圧力。(100%以上、40、社会科学系)
- ・意識の低い教員がいる。学生の集中力があまりない。(100%以上、40、社会科学系)
- ・学生自身の“気づき”が4年生(ないし3年後期)となり遅い。早くに気づいた学生は就職等で成功をおさめている。1、2年生では、教員の提供するプログラムになかなか“のってこない”“のれんの腕押し”“馬の耳に念仏”という感じ。(100%以上、40、社会科学系)
- ・入試が学生選抜の機能を果たすことができない(100%以上、40、社会科学系)
- ・科目に関して全教員が全教科についての重要性を共有していない一面があると考えられる(100%以上、40、社会科学系)
- ・入試において、大学で学ぶのに必要最低限の学力、知識が担保されていない。(100%以上、40、社会科学系)
- ・履修者の学修意欲が低い。(100%以上、40、社会科学系)
- ・教員数が少なく、1講義の人数が多い(100%以上、40、社会科学系)
- ・質に対する評価システムが確立されていないように感じる。(100%以上、42.5、保健系)
- ・大学のサポート体制(事務補助員の配置や教育ツールの整備)。大学全体での組織的な取り組みの欠如。(100%以上、42.5、保健系)
- ・学部間の意識の差。学部ごとに経営されていること自体。(100%以上、42.5、保健系)
- ・特にありません。本学部は(医療系)国家試験受験資格を付与するため、国家試験合格者を維持する必要があります。そのため、学部全体として教育の質保証にとり組んでいます。現在、国公立以上の国家試験合格者を維持しています。(100%以上、42.5、保健系)
- ・専門職養成の為、国家試験に合格するレベルが最低限である。病院施設等で患者様を担当し、実習指導者から指導を受けるため、社会人としての素養も最低要求されるため。質を保証するため、学習だけでなく、集団への適応を図るような教育システムになっており、学内でさまたげとなるものはみあたらない。(100%以上、42.5、保健系)
- ・欠員があっても相互ヘルプでなんとかなっているので人員が適切に補充されない。取りくむことによる教員評価、および報酬はない。もともと人員に余裕がない上に「学生にあう個別指導を」という課題を負われ。時間外キム、持ち帰り仕事が入るのみ。NOと言えない雰囲気、教員が何でもやらなければいけないという雰囲気(生活しどうなど)(100%以上、42.5、保健系)
- ・大学(学長)の理想が高く、学生のレベルにまったく合っていない。色々とやっっているが、学生のレベルにあっていない。色々とやっていることが、私学の宣伝に使用されている(受験生集め)。レベルの低すぎる学生、発達障害の特徴を持つ学生が多く、政治判断で学生をとり、上の学年に上がってくる。(100%以上、42.5、保健系)

・学生の動機を高めるよう工夫をしているが、準備の時間が十分にとれず、学生の能力や動機に合わない場合がある。学生の能力が低い場合、どこまでやればよいかわからない。学生の能力があがっていないこと。(100%以上、42.5、保健系)

・入試: ほぼ無試験のような状態で入る“お客様”に大きな時間が割かれる。評価: 留年、退学率などが評価に反映される。人手: ●●最低人数で(専攻)取り組んでいる。教育以外の仕事(生活指導、小中義務教育レベルの内容、精神的ケア、営業)が多い。(100%以上、42.5、保健系)

・研究とのバランス(100%以上、42.5、保健系)

・業務量が多く時間が十分に確保できない。学生数が多すぎる(定員超過)。(100%以上、42.5、保健系)

・ゆとり教育による? 学習習慣のなさにより期待しているほどの効果がない。学校教員の雑務の多さによる教育、研究時間の確保困難(私立は事務員が少ない)。(100%以上、42.5、保健系)

・教員の意識の格差がある。(100%以上、42.5、保健系)

・基礎学力(高校レベル)、勉強する習慣の不足。(100%以上、42.5、理・工学系)

・入学時の基礎学力の不足(100%以上、42.5、理・工学系)

・授講者数が多く(～100名)、彼らの学力分布が広いと、上位層に合わせた授業を行うと、下位層は追いついてこれない。(100%以上、42.5、理・工学系)

・様々な入試方式で学生は入学するので、学力差があります。全ての学生に理解できる様に講義するのが難しく。(100%以上、42.5、理・工学系)

・入試の改善で、学習方法が分からない、学習の習慣がない学生は減ったが、推薦入試があるため、多少上記の学生が入学している。そのため、課題等を出して、自主学習を促すが、できない学生がいる。(100%以上、42.5、理・工学系)

・「国際化の推進」と「学習の質の保持」がどうしても逆進的である点、研究成果との両立が極めて困難である点。(100%以上、42.5、理・工学系)

・学生の学習意欲に大きな差があり、必要レベルを上げると落ちこぼれが多くなり、下げると上位学生が物足りなくなっている。(100%以上、42.5、理・工学系)

・S/T比が高い上に、どこかの大学でも同じでしょうが、いわゆる雑用が多い。また、例)にあるように昇格時には単に教育〇何年で済まされてしまう。(100%以上、42.5、理・工学系)

・カリキュラムの細分化。結果としてつながりの無い授業が行われている。(100%以上、42.5、理・工学系)

・教育活動は業績には含まれない。(100%以上、42.5、理・工学系)

・教員個々の意識によるところが大きいと考えている。最も難しいと感じているのは、学生の勉強意欲の欠如にあるがそれを何とかしたいと考えている。(100%以上、42.5、理・工学系)

・教育活動に熱心に取り組んでも、それに見合うだけの評価が得られない。質保証のために行っていることが、学生に理解されていない(学生にとって“厳しい教員”としか映っていないようである)(100%以上、42.5、理・工学系)

・“保証”の具体的アクションについて教員間でイメージや情報を共有することが難しい。(100%以上、42.5、人文科学系)

・校務に割く時間が多く、実現させたい意思や具体的な計画があっても物理的に時間が足りない。(100%以上、42.5、人文科学系)

・学部内での(コースごとの)勢力争い。(100%以上、42.5、人文科学系)

・学生数の多さ。定員を越える学生を受け入れているため、コマ数確保、非常勤の調整などで、一つ一つの講義の質をチェックする余裕がない。また、教務関連の業務が膨大で、質確保のためのチェックや振り返りの余裕がない。(100%以上、42.5、社会科学系)

・コンピュータなどの情報関連の機材(ソフト含)の環境が整っていない(とぼしい)。多くの大学で教えてきたが、非常に不便で、10年? いや20年くらいおくと感じる。世間の流れに逆行しているように感じる。教務委員長としての職務が大半で、十分に授業で教育ができていないように感じる。(100%以上、42.5、社会科学系)

・教員によって、温度差が有る。(100%以上、42.5、社会科学系)

・意識をしていない教員がいる。(100%以上、42.5、社会科学系)

・学部、大学に関係なく、学界的に、教育活動が評価されないの、教育への力の入れ具合が小さくなってしまふ。(100%以上、42.5、社会科学系)

・学生たちが持つ基礎学力の差が大きいこと(100%以上、42.5、社会科学系)

・学生の学力の幅がかなり広い。どの程度の情報を提供するかを、常に迷う。(100%以上、42.5、社会科学系)

・今実現に向けて取り組み始めている段階であり、そもそも実現が妨げられていたと考えるのが難しい。単にシステムが存在していなかったただだと認識している。(100%以上、42.5、社会科学系)

・教員の意識にズレがある。(100%以上、42.5、社会科学系)

・より高度な教育の水準(レベル)、特に大学においては研究と教育を結びつけていくことが重要であると感じながら教育することの意識の低さ。教育の質の意味の本質を理解することの共通認識が低い。(100%以上、42.5、社会科学系)

・担当科目数が多く質改善にさく時間が限られている。(100%以上、42.5、社会科学系)

・教育活動の評価基準がない。個別具体的な基準もない。(100%以上、45、保健系)

・専門職を目指す学科であるため、4年生に対して国家試験対策が行われるため、ある程度の引き上げは可能となっています。ただ、1、2年生に対する介入は充分ではないと感じています(100%以上、45、保健系)

・一般教養については、どの程度成果が上がっているのか見えない。所属学部(学科)においては、教育活動にとりくんでもそれに見合った評価(昇給や昇格)などが得られない。教育不真面目でも外部への論文投稿があれば昇格していく。(100%以上、45、保健系)

- ・例文同様。(100%以上、45、保健系)
- ・学生アンケートを重視するような大学方針を感じ、モチベーションが上がらないし適切な質の保証のために配慮されていないと感じる。雑務が多く研修費もつかず、質が担保しづらい(100%以上、45、保健系)
- ・所属長の無理解や妨げ(100%以上、45、保健系)
- ・受け持ち科目の多さ、授業以外の仕事量が多く、質保証の実現を目指して行動するための余裕がない。(100%以上、45、保健系)
- ・全ての学生を卒業させようとする範囲気。個別的対応を再三行った上で、再履習とした際も、“落とすことは良くない”と考えている教員の存在(または批判)。入試制度(科目を極単に減らし、受験者を増やそうするため、アドミッションポリシーが機能していない)。(100%以上、45、保健系)
- ・学生が集まらないため、定員を満たすために入学試験の点数の低い受験者も合格にせざるを得ないこと。当学部は国家試験受験に向けた学科のみのため、いわば出口のレベルを下げるわけにはゆかないが、上記のような理由で入学者のレベルも下がり、質保証するためのとりくみを多く実施しなくてはならなくなってきている。(100%以上、45、保健系)
- ・教員の指導力の不足。成績による退学勧告を一律に行うことが、学部内ですすめられている。問4にある問5 1)、2)の問題があっても、教員や友人の姿をみてモチベーションを徐々にあげていく学生もいる。指導をしてきたそういう学生に対し、退学勧告が点数でされるのは、教員としてのモチベーションが下がる。また、そういった教育活動に対して評価が得られない。(100%以上、45、保健系)
- ・専門学科の所属ではないので学生との距離がある。(100%以上、45、保健系)
- ・熱心さは半ば趣味です。お節介りかも。加えて、基礎学力を底あげするためには教員不足。また、実現するためには学生の生育歴等までさかのぼって学習計画を練る必要があり、また本人・親も何が足りないのかもわからないため、対策を立てるまでに時間がかかる。たぶん学ぶことに、受け身であることに慣れすぎているから。(100%以上、45、保健系)
- ・入学時の学力の差が大きい。たとえば施設推せん、学校推せんの入学者は基礎学力が身についていないので学部の到達レベルまで到達させる為に指導する時間とエネルギー方法などの工夫がいる。(100%以上、45、保健系)
- ・学生レベルの差があり、どのレベルに合わせるべきかについて迷う。現代若者の気質を含めて、自分の大学の学生の質をアセスメントすることが大切である、と感じている。(100%以上、45、保健系)
- ・多忙でじっくりと時間をかけて質にとり組むゆとりがもてない(100%以上、45、保健系)
- ・教員間の意識差(100%以上、45、保健系)
- ・カリキュラムが学生の学習しやすい進度・内容になっていない。カリキュラムを編成する教員のモチベーションが低い。(100%以上、45、保健系)
- ・教員が退職、就職などで変わると、これまでの方針が変更し、継続していかないこと。(100%以上、45、保健系)
- ・留年、退学者が増えて良いのなら…。できるかも。(100%以上、45、理・工学系)
- ・そもそも学生が前向きでない(100%以上、45、理・工学系)
- ・教員、学生の意識レベル(到達目標)がそもそも低い。(100%以上、45、理・工学系)
- ・担当コマ数が多い。担当科目が大きく変動する。(100%以上、45、理・工学系)
- ・雑用が多い。会議が多い。研究論文のノルマが多い。(100%以上、45、理・工学系)
- ・研究と教育のバランス(100%以上、45、理・工学系)
- ・教学と事務職との分担が明確でない事。(100%以上、45、理・工学系)
- ・資格と関係のない学科との温度差(100%以上、45、理・工学系)
- ・授業、研究指導、大学運営(入試関連、地域サービス)、就職支援等業務多忙であり、教育の質保証について、検討する時間的余裕がない。(100%以上、45、理・工学系)
- ・教育の質保証の取り組みの中で、例えば、課題をほぼ毎回課しているが、他の授業でも同様に課題が出るため、学生が課題に追われてしまう。その結果、1つの授業の課題に充てる時間が少なくなり、課題による効果が半減してします。各授業間で連携ができればより効率がよいのではと考えている。(100%以上、45、理・工学系)
- ・大学が質保障に積極的ですので、妨げはありません。(100%以上、45、理・工学系)
- ・入学してくる学生の学習意欲の欠如。目的意識が希薄であること。(100%以上、45、理・工学系)
- ・「教育の質保証の実現の妨げ」があるのかどうかはわからない。一方で、その実現に向けて全学、学部、学科での取りくみが進められている中であって、その努力の成果・効果が目に見える形で示されないと、個々の教員の取りくむ意欲は向上しないのではないかと思います。(100%以上、45、理・工学系)
- ・雑務の多さ、研究室での指導(研究を通した教育)の時間の確保は理系には絶対に必要であると考える。(100%以上、45、理・工学系)
- ・形だけのとり組みであり、学習の底上げになっていない。(100%以上、45、理・工学系)
- ・大学入試制度。学生の人数減少により、人数確保が優先され、質より量となった。(100%以上、45、理・工学系)
- ・学部(科)間、科目間の教員による認識の相違(共通科目でも、学科によって、専門に偏った内容を求めてくる)。学生の基礎学力の差が大きく、質保証を意識すると低い方の底上げばかりになり、高い方の意欲が削がれがち。習熟度別クラス編成は人件費削減のためか認めてもらえない。(100%以上、45、理・工学系)
- ・取り組みの形骸化(100%以上、45、理・工学系)
- ・特にありません。(100%以上、45、人文科学系)
- ・学生のやる気を引き出し、持続させるしくみがない(100%以上、45、人文科学系)

- ・会議や各種委員会業務に使う時間が長い(100%以上、45、人文科学系)
- ・学部内で教育に対する意思統一が図られていない。(100%以上、45、人文科学系)
- ・FDとIRを結びつけ、教育研究を推進する機関(研究所)を作ろうとしないこと。教育研究の蓄積がなく、新しい教育施策の考案実施につながらない。災害の多い日本では、Moocs講義の開発は必要になるはず。(100%以上、45、社会科学系)
- ・会議(学内)(100%以上、45、社会科学系)
- ・教育の質内容の理解が、教員により相異していること。学生の修学、管理が効率的になされるようにシステム化されないこと。(100%以上、45、社会科学系)
- ・学生の学修に対する考え方が、細切れになっている。その場、その時間だけとりつくろえば良いと認識している学生が多い。学生間で違いが出来ることを良しとしない。(100%以上、45、社会科学系)
- ・学問の積み上げについて、学生の理解が十分でない。(100%以上、45、社会科学系)
- ・学生の学習時間の短かさ(アルバイトの時間の長さ)(100%以上、47.5、保健系)
- ・70%以上の学生の受け入れ。(指定校入試、AO入試等、SP、40～55未満の高校の〇〇の積極的入学制度)(100%以上、47.5、保健系)
- ・教員(一部)の学問・研究レベルの意識の低さと能力不足。(100%以上、47.5、保健系)
- ・教職課程ですので、一人一人にしっかりと力をつけさせたいですが、一コマに人数が70～80人という科目があり、個別対応がとても難しい。(学生の人数をせめて半分にしてほしいが・・教員の数、教室の確保など・・妨げになっているように感じます)(100%以上、47.5、保健系)
- ・学生自身の学習意欲。資格系学部に対する、本人の希望と家族(保護者)の希望のズレ。学費を払うのだから適性、成績に関わらず卒業させろという保護者の姿勢(100%以上、47.5、保健系)
- ・教員の質保証の具体的レベルに差があるのではないかと考えている。職位に関係なく、目指す教育について、自由に発言することが難しい状況があるため。(100%以上、47.5、保健系)
- ・他の教員の意識(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・研究、教育、雑務と、やるべきことが多すぎて、じっくり教育活動に取り組める時間を確保できない。(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・学内業務に時間がとられる。(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・どこかねらいかわからない。うまく言えないが、理学部なので、資格の教育とは違う。(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・教育に関しては学生アンケートのみで評価しており、それが昇格等の人事に反映されない。教員個々ではそれなりにやっていると思うが学部、学科等での一体感はない。(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・仕事が忙しすぎて、取り組む時間がない。教育の評価も得られない。(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・担当授業数の多さ(週に●●コマ(×90分)拘束)。絶対的な時間の不足。評価の低さ(努力に対する)。評価をする教員の質の低さ(セクハラ・パワハラで処分歴のある教員が他人の評価をしている)。(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・少子化による偏差値の低下。高校までのカリキュラム(学問の面白さを伝えることを教えていないので、自由な発想の学生が少ない)。みんな同じ発想(大学出て一企業に務める)。(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・新入生の質(レベル)の低下(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・(教育活動に熱心に取り組んでも、それに見合うだけの評価が得られない。)←この通りです。(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・国公立に比べ、能力のダイナミックレンジが広いため、最初は高校の復習から始めざるを得ない(数学や英語は能力に応じてクラス編成をしているが、全ての科目をクラス編成する余裕はない)(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・多忙につき、十分な時間が取れない。(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・私は●●科所属のため、全学科の学生を見ますが、勤務先である理系大学の場合、各学科(さらには各研究室)の独立性が強いため、横の連携や足並／意識を揃える事は困難に感じます。(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・学科の壁が高い(100%以上、47.5、人文科学系)
- ・教育に力と時間をできるだけ使いたいにもかかわらず、校務が増えて物理的に厳しくなっている(100%以上、47.5、人文科学系)
- ・質保証の実現に向けて具体的に何をすべきか、知識不足(100%以上、47.5、人文科学系)
- ・大学事務コストカットによる教員の雑務増加(100%以上、47.5、社会科学系)
- ・小・中・高での基礎学力の不足(100%以上、47.5、社会科学系)
- ・施設・設備が不十分。教育活動に対する予算が少ない。(100%以上、47.5、社会科学系)
- ・無駄で効率の悪い校務が多く、教員の教育活動の妨げになっている。(100%以上、47.5、社会科学系)
- ・入試が機能していない(ほぼだれでも入学する)。大学の質の保障以前に、高校の学力の質の保障をして欲しい。大学だけにおしつけないで。(不明、不明、不明)
- ・無関心な同僚。(不明、不明、不明)
- ・教育の質の向上、改善をするために必要となる時間が少ないこと。(不明、不明、不明)
- ・事務職員の業務内容・取り組み。学問の内実について無理解と思われる実務家出身の教員、およびキャリア教育、FD関連を主導する学内外の研究者(と称する人々)の存在。(不明、不明、不明)

・①大卒レベルに到達できない学生もいて、基準の達成だけで教育できない。これは妨げではなく、価値観の転換(基準の内容とそのレベルのこちら側での修正と柔軟な姿勢がいる。)が必要だと思っている点、しかし、最大の妨げは「学生の質」かもしれない。(不明、不明、不明)

問7. 大衆化した大学における教育の質保証に関する以下のような意見について、貴学部にも所属する教員としての立場からどのようにお考えになりますか。

1)教育の質保証に積極的に取り組まなければならない

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①反対	1.4%	1.4%	1.1%	1.7%	1.4%	1.5%	0.0%	3.3%	0.0%	2.6%	0.5%	2.2%
②←	3.8%	4.4%	2.5%	3.9%	4.7%	3.5%	3.0%	3.3%	1.9%	2.9%	6.5%	4.0%
③→	36.1%	32.9%	39.0%	36.7%	37.1%	34.2%	34.8%	45.6%	24.5%	41.9%	35.8%	40.2%
④賛成	58.7%	61.3%	57.4%	57.7%	56.8%	60.8%	62.2%	47.8%	73.5%	52.6%	57.2%	53.6%
N	1059	362	277	414	278	521	164	90	257	272	201	323

2)教育の質保証を実現するためには、出口管理の強化を行うべきである

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①反対	4.0%	5.0%	3.6%	3.2%	3.6%	4.8%	2.4%	2.2%	2.0%	5.5%	4.0%	4.0%
②←	17.0%	16.3%	18.8%	16.6%	20.7%	16.8%	15.2%	11.2%	11.4%	16.6%	22.5%	18.7%
③→	44.2%	43.9%	44.2%	44.0%	44.6%	44.2%	36.6%	55.1%	41.6%	43.9%	43.0%	46.7%
④賛成	34.9%	34.8%	33.3%	36.2%	31.2%	34.2%	45.7%	31.5%	45.1%	33.9%	30.5%	30.5%
N	1053	362	276	409	276	518	164	89	255	271	200	321

3)教育の質保証を実現するためには、第三者機関によって「何を」「どこまで」というような基準が定められるべきである

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①反対	22.5%	22.2%	21.7%	23.1%	22.1%	24.1%	17.8%	22.5%	10.7%	28.3%	27.9%	23.3%
②←	37.9%	41.4%	40.2%	33.3%	37.0%	38.2%	40.5%	34.8%	32.9%	34.9%	44.3%	40.4%
③→	27.6%	25.6%	27.2%	29.9%	27.5%	27.2%	28.2%	30.3%	36.5%	26.8%	19.9%	26.4%
④賛成	12.0%	10.8%	10.9%	13.6%	13.4%	10.6%	13.5%	12.4%	19.8%	9.9%	8.0%	9.9%
N	1053	360	276	411	276	519	163	89	252	272	201	322

4)教育の質保証を実現するためには、大学の種別化・機能分化を行うべきである(例えば、第一種大学／第二種大学、など)

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①反対	29.5%	28.7%	29.0%	30.1%	28.1%	30.9%	27.2%	27.8%	18.7%	34.4%	36.2%	29.1%
②←	35.5%	36.8%	36.0%	34.3%	39.4%	32.3%	36.1%	42.2%	32.7%	31.5%	36.2%	41.1%
③→	25.2%	23.6%	25.4%	26.4%	22.6%	26.0%	25.3%	27.8%	34.3%	24.4%	20.9%	21.2%
④賛成	9.8%	11.0%	9.6%	9.1%	9.9%	10.8%	11.4%	2.2%	14.3%	9.6%	6.6%	8.5%
N	1039	356	272	405	274	511	158	90	251	270	196	316

5)教育の質保証を実現するためには、教員の研究にかかるエフォートはできる限り小さくすべきである

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①反対	47.3%	42.6%	47.3%	51.0%	48.5%	43.3%	51.8%	56.2%	34.3%	58.8%	50.3%	45.5%
②←	31.9%	35.0%	30.3%	30.5%	29.6%	35.4%	27.4%	28.1%	39.8%	22.8%	31.7%	33.9%
③→	16.6%	16.0%	19.1%	15.6%	15.0%	17.4%	17.7%	15.7%	22.4%	15.1%	13.6%	15.4%
④賛成	4.2%	6.4%	3.2%	2.9%	6.9%	3.9%	3.0%	0.0%	3.5%	3.3%	4.5%	5.3%
N	1050	357	277	410	274	517	164	89	254	272	199	319

6)教育の質保証を実現するためには、教育活動のみを職務とする教育専任教員が必要である

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①反対	18.7%	17.6%	18.8%	19.4%	19.2%	19.0%	14.7%	22.0%	15.2%	15.4%	23.6%	21.0%
②←	27.5%	31.0%	23.9%	27.2%	27.5%	28.7%	22.1%	31.9%	28.1%	22.1%	28.1%	31.7%
③→	32.4%	30.2%	33.3%	33.7%	30.4%	33.9%	30.1%	34.1%	37.1%	37.1%	26.6%	28.2%
④賛成	21.4%	21.2%	23.9%	19.7%	22.8%	18.4%	33.1%	12.1%	19.5%	25.4%	21.6%	19.1%
N	1052	358	276	412	276	516	163	91	256	272	199	319

7)十分な支援を行ったとしても一定の基準を満たせない学生は出てきてしまうため、教育の質保証は厳格に考えるべきではない

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①反対	17.7%	15.8%	19.2%	18.7%	18.3%	16.1%	23.3%	16.5%	20.8%	18.5%	14.6%	17.0%
②←	37.4%	37.9%	39.9%	35.4%	35.5%	41.6%	28.8%	35.2%	44.7%	34.3%	37.7%	34.1%
③→	34.2%	37.0%	29.3%	35.0%	34.4%	33.4%	35.6%	35.2%	28.6%	33.2%	37.2%	37.5%
④賛成	10.7%	9.3%	11.6%	10.9%	11.7%	8.9%	12.3%	13.2%	5.9%	14.0%	10.6%	11.4%
N	1048	354	276	412	273	515	163	91	255	271	199	317

Ⅱ. 貴大学(あるいは学部)における教員評価(一定期間ごとの評価)についてうかがいます。

問8. 貴大学(学部)では、教員評価は行われていますか。

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①行われており、教育活動も評価の対象である	70.7%	66.1%	79.9%	68.8%	72.1%	66.6%	83.5%	67.4%	71.0%	77.1%	70.1%	65.5%
②行われていない、あるいは、行われているが、教育活動は評価の対象外である	29.3%	33.9%	20.1%	31.3%	27.9%	33.4%	16.5%	32.6%	29.0%	22.9%	29.9%	34.5%
N	1063	363	278	416	280	521	164	92	262	275	201	319

問9. 貴大学(学部)における教員評価では、あなたの教育活動はどのような評価をされることが多いですか。

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①相対的に高い評価(例えば5段階評価だと5や4に相当)	45.6%	47.8%	44.7%	44.8%	45.5%	44.5%	50.7%	42.6%	42.3%	45.0%	50.4%	46.6%
②相対的に中程度の評価(例えば5段階評価だと3に相当)	31.0%	29.3%	32.4%	31.2%	34.8%	30.4%	27.9%	27.9%	33.5%	33.0%	25.6%	30.1%
③相対的に低い評価(例えば5段階評価だと2や1に相当)	3.6%	3.9%	2.7%	3.9%	3.0%	3.6%	5.1%	1.6%	3.8%	3.3%	4.5%	2.9%
④教育活動のみの評価はわからない、あるいは、まだ評価をされたことがない	19.8%	19.0%	20.1%	20.1%	16.7%	21.5%	16.2%	27.9%	20.3%	18.7%	19.5%	20.4%
N	732	232	219	279	198	335	136	61	182	209	133	206

問10. 貴大学(学部)における教員評価において、教育活動に対する評価が高い教員(例えば5段階評価だと5)と中程度の教員(例えば5段階評価だと3)とでは、処遇(例えば、給与(賞与等含む)や個人研究費の増額、業務の負担減など)にどの程度の差が生じますか(あるいは、生じると思われますか)。

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①大きな差が生じる	1.8%	1.1%	0.6%	3.5%	1.8%	1.9%	1.7%	2.3%	2.1%	2.4%	0.0%	2.4%
②どちらかといえば大きな差が生じる	12.1%	11.6%	15.4%	9.6%	13.7%	13.9%	7.0%	6.8%	14.4%	12.4%	8.8%	11.6%
③どちらかといえば大きな差は生じない	30.8%	26.8%	33.7%	32.0%	29.8%	31.2%	30.4%	34.1%	34.2%	29.4%	34.5%	26.8%
④大きな差は生じない	55.3%	60.5%	50.3%	54.8%	54.8%	53.0%	60.9%	56.8%	49.3%	55.9%	56.6%	59.1%
N	595	190	175	228	168	266	115	44	146	170	113	164

問11. 問10で「①大きな差が生じる」「②どちらかといえば大きな差が生じる」と回答された方にお尋ねします。その差とはどのようなものですか(あるいは、どのようなものだと思いますか)。具体的にお書きください。例)教育活動に対する評価が高い教員は中程度の教員よりも、年俸が〇万円ほど高い。

- ・期待される分業務内容の負担が多いように感じる。(50%未満、BF、人文科学系)
- ・個人研究費に反映される(多少ですが)(50%以上80%未満、BF、保健系)
- ・個人研究費が減額される(50%以上80%未満、BF、保健系)
- ・個人研究費の増額は見込めませんが減額の幅が評価の低い教員ほど大きいように思います。昇任等にも影響していると思います。(50%以上80%未満、BF、保健系)
- ・人事考課制による金銭面への反映がある(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・額はわからないが差はあると思う。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・研究費の削減(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・高いと昇進が早い(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・学内での有形無形プレゼンス(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・一部個人研究費支給の条件となる。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・適材適所となり、評価の高い教員を優遇してしまう。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・評価が高ければ年俸が数%上がる(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・1年次終了時点で、年俸が向上した。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・具体的な金額がわかりません。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・ほとんどの教員が任期制であり、再契約の面談により、次期契約の条件が呈示される。その際教育活動が低評価の場合、年収の低下や契約の更新が行われないことがある。終身契約の場合は、他部所に出向のこともある。(50%以上80%未満、35、保健系)

- ・学外授業などが増える。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・内〇として制定した段階であり、具体的運用はこれから。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・表彰。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・高い教員は、低い教員よりも仕事を多くこなすが、それによって何かが変わるわけではない。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・昇格に差がつく(50%以上80%未満、37.5、理・工学系)
- ・賞与面にて反映されているらしいが、詳細は不明。あまり大きな差はないかも知れない。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・重要役職につく。査定が良くなる。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・給料(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・①賞与の一部カットが行われている。②授業公開(年2回)以外で、学長による授業参観。改善案の提出を求めるなどが行われている。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・人事考課制度により賞与の2割程度低くなる。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・ボーナス評価など(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・教員評価がボーナスに反映される。額は不明である。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・意識(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・給与に影響(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・ボーナス査定(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・ボーナスなどに反映されている。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・給与があがらない。研究費の増額がない。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・年俸制で3年契約なので、評価が待遇に反映されにくい。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・給与、賞与を含む個人契約及び契約更新時の条件に反映される。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・賞与に差が出る。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・月給の昇給が1ランクにつき数千円程度(推定)変わってくる。(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・給与反映(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・給与(交渉で勘案)。思情昇格で勘案。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・ボーナスに差がでる(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・研究費などで評価により分配増額がある(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・個人研究費に格差が生じている。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・賞与や個人研究費に差は生じるが、個々に違があるため詳細は分かりかねる(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・研究費、昇迫(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・管理職への抜擢等(100%以上、BF、理・工学系)
- ・3月賞与額5～25万(100%以上、BF、社会科学系)
- ・賞与の算定率に影響する(0.7～1.8程)。昇進の早さに可味される。上位者に業務負担を多くする。下位者は学校運営の中で重要な委員会に配属されず、意思が反映されづらい。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・教育活動に対する評価が高い教員は、中程度の教員よりも年俸が60万円ほど高い。(100%以上、35、社会科学系)
- ・昇進に関係するポイントに差が出る。(100%以上、35、社会科学系)
- ・賞与、個人研究費(100%以上、37.5、理・工学系)
- ・学生に対する評価が厳しすぎる教員に対する処遇は考える必要がある(100%以上、37.5、理・工学系)
- ・夏冬の一時金で10%程度の差(100%以上、37.5、理・工学系)
- ・賞与がある。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・どれだけ教育活動を高く行っても研究業績が高い人のほうが処遇がよい(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・賞与に関すること(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・個人研究費の増額が行なわれている(教育評価の報酬、賞)(100%以上、40、保健系)
- ・給与には差はないが、研究費として与えられる(100%以上、40、保健系)

- ・報酬の差。役員等の業績の差。(100%以上、40、保健系)
- ・ベストレクチャー(評価が高い)として研究費30万円が上のせ。ただし、教え方が上手というよりは安易に単位を出す教員、高い学生に迎合する教員が往々にして。(100%以上、40、保健系)
- ・個人研究費(100%以上、40、保健系)
- ・評価ではなく、ある基準コマ数以上の講義を担当すると、その数に応じて超過分の給与が支払われる。(100%以上、40、理・工学系)
- ・昇進などに影響する。(100%以上、42.5、理・工学系)
- ・差が正じるべきだと思いますが、実際には正じていないと思います。どんなに力を尽しても、評価されないと(あるいは、積極的に行わない教員との業ム量の差を意識すると)疲弊してくると思います。(100%以上、45、保健系)
- ・教育、研究、大学運営、社会貢献の4項目において、自己評価と学科長・学部長による評価によって、学内全教員が評価され、偏差値が示される。偏差値60以上は評価A、40以上60未満は評価B、35以上40未満は評価C、35未満は評価Dと判定され、処遇に反映される。(100%以上、45、理・工学系)
- ・研究費や職階が優遇・早く進むなど。現在理事会と組合が交渉中で確定はしていないはずです。(100%以上、45、理・工学系)

問12. 貴大学(学部)における教員評価において、教育活動に対する評価が低い教員(例えば5段階評価だと1)には、処遇にどのような影響が生じますか(あるいは、生じると思いますか)。(あてはまるものすべてを選択)

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①職を失う恐れがある	9.2%	16.3%	6.7%	5.2%	9.5%	10.5%	8.7%	2.2%	16.8%	4.6%	8.7%	7.8%
②昇進や任期更新ができない恐れがある	48.9%	49.5%	54.5%	44.3%	52.1%	47.3%	50.4%	44.4%	55.7%	46.2%	42.6%	50.3%
③所属教員としての肩身が狭くなる恐れがある	39.0%	38.8%	36.0%	41.7%	45.6%	32.4%	44.3%	42.2%	42.3%	43.4%	31.3%	37.1%
④給与(賞与等含む)や個人研究費が著しく減額される恐れがある	13.0%	9.7%	20.2%	10.4%	11.8%	16.7%	7.8%	8.9%	11.4%	13.9%	11.3%	15.0%
⑤業務の負担が著しく増加する恐れがある	4.4%	5.1%	3.9%	4.3%	4.7%	4.7%	4.3%	2.2%	6.7%	4.0%	2.6%	4.2%
⑥その他	3.5%	3.1%	3.9%	3.5%	1.8%	4.0%	3.5%	6.7%	2.7%	3.5%	4.3%	3.6%
N	607	196	178	230	169	275	115	45	149	173	115	167

問13. 貴大学(学部)における教員評価において、教育活動に対する評価の高低によって処遇に(より)大きな差が生じるとした場合、あなたの教育活動への取り組み方は変わりますか。

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①評価を意識せずこれまで通りに取り組む(そう熱心に取り組むわけではない)	12.7%	13.8%	10.9%	12.8%	15.2%	12.4%	10.5%	10.2%	10.7%	14.2%	14.1%	12.0%
②評価を意識せずこれまで通りに熱心に取り組む	69.7%	69.3%	72.0%	68.7%	65.2%	72.2%	72.2%	65.9%	74.7%	67.9%	68.3%	68.4%
③評価を意識してこれまで以上に熱心に取り組む	17.7%	16.9%	17.1%	18.5%	19.6%	15.5%	17.3%	23.9%	14.6%	17.9%	17.6%	19.6%
N	1042	355	275	406	276	510	162	88	253	268	199	316

問14. 問13で「①評価を意識せずこれまで通りに取り組む」と回答された方にお尋ねします。教育活動に対する評価の高低によって処遇に(より)大きな差が生じたとしても、あなたの教育活動への取り組み方が変わらないのはなぜですか。その理由を具体的にお書きください。例)教育活動に対する学内での評価よりも、研究活動に対する学外での評価を重視しているため。

- ・聖職に就く者としてこれまで通りベストを尽くす。(50%未満、BF、人文科学系)
- ・自分なりの哲学があり、評価云々とは次元がちがうから。(50%未満、BF、人文科学系)
- ・教育活動に対する学内の評価よりも研究活動に対する学外の評価を重視する(50%未満、35、人文科学系)
- ・学生教育、第一と考える！！(50%未満、35、人文科学系)
- ・現在でもできるだけことはやっている(50%未満、40、人文科学系)
- ・熱心かどうかは他人には関係がないので、熱心に取り組む意味がない。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・教育活動に対して正当な評価がされるとは思っていないため。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・現状がフルスロットル状態なので、変わらないです。(50%以上80%未満、BF、理・工学系)
- ・教育活動に対する自己の考え方や、文科省や大学“執行部”の考え方が大きく異なるため。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)
- ・教育活動では一定の評価はされており(学生の反応、アンケート)・努力もしていると自認しており、これ以上に行うには、仕事内容や契約をしなさいとならない。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)
- ・大学のリソースが少ないため、業務量や環境・条件などが変わらない。自分のイシキと行動を変えて対応できる事には限界があり、ムリなものはムリなので、物理的にムリ。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)
- ・教員に結果を求めるものなのかという疑問(50%以上80%未満、BF、人文科学系)
- ・教育活動に対する評価のみが分化しているわけではない。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)

- ・今も自信をもって行っているから(50%以上80%未満、BF、人文科学系)
- ・現段階ですでにほぼできることはやっているつもりだから。(50%以上80%未満、BF、人文科学系)
- ・例にっていますが、教育と研究のバランスをとりたいので。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・①財政難による資金不足のため、評価の高低が報酬に全く反映されない状況。②別に大学当局の目を気にして授業をしているわけでは全くない。③(過去)本学では教育熱心な教員を冷遇する傾向にあり、大学当局の評価の信頼性が疑わしい。④少しでも私の授業を受けた学生の今後の糧になればそれによいと思っている。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・しんどい思いをしたくない。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・教育的倫理観より教育を行うべき(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・評価に関係なく、取り組んでいるため。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・自分の信念によって行動する。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・自分の生活スタイルを変えたくない。いろいろな評価があり、それぞれに応えることは、不可能(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・本来、大学の教員は、研究者として研究活動を行うことが大切であり、その研究の成果を学生に教授するべきだと思います。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・今まで通りのスタンスで行う。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・長年の経験から評価はその人々の個々の職務内容にも影響を受けているので、全く評価が同一(等)のレベル評価とは限らない。(50%以上80%未満、BF、社会科学系)
- ・教育は学生に対するサービスのひとつとらえるため。(これは教育評価が高い場合、低い場合は身を引く。)(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・専門性を高めるためには教育は必要と思うが、それに時間をかけるだけのメリットは得られない気がする(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・評価を意識すると、モチベーション低下につながる。現在、取り組んでいること(教育も研究も)が結果として、評価されればラッキーと考えているため。(50%以上80%未満、35、保健系)
- ・教育活動に取り組むことは当然のことだから。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・大学の教員は、研究・教育が一体となって評価される集団である。特に研究者としての資質は物事に対する積極的に受け止め、発展させることが基本である。これは教育に対する基盤である。研究者の考え方、姿勢は100%教育に反映させることによって、教育の質保証を常に考えた方法が導びき出せると思われる。30年以上教育に携わってきた現在においても常に同じ考え方を継続している。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・やるべき事が決まっているため(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・評価を意識して取り組んでも、成果が出るまでには、非常に長い取りくみと時間を必要とするので、時間がたりない。そもそも教育活動における研修等の機会があまりない。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・評価されようが、されまいが、自分の正しいと思うやり方で教育を行なっていく。評価、特に学生による評価自体がある一面だけをとらえてのものだと思っているから。(50%以上80%未満、35、理・工学系)
- ・学内外の活動は、何をやっても評価されない(上層部に)と感じるから科研とってもグラントとっても何の反応もない。(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・自分は研究するために入職したと思っているので(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・大学教員としての務めであるため(50%以上80%未満、35、人文科学系)
- ・「熱心」というほどではないが、毎年少しずつは教育活動の取り組み方を変えてきた。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・熱心に行っているつもりなので、これ以上は難しい。授業の担当数が多いため。(50%以上80%未満、35、社会科学系)
- ・現状の評価方法は学生へのアンケートのみを重視しており、学生と教員間の相互作用や学生の日頃のとりのくみに対する客観的な評価がないため(50%以上80%未満、37.5、保健系)
- ・学生の変化を期待しているから。(50%以上80%未満、37.5、保健系)
- ・看護学を学ぼうとする学生への思いや、成長しようとする力を伸ばしてあげたい。(50%以上80%未満、37.5、保健系)
- ・例の通り(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・教育活動をやらないわけではなく、「評価」を意識して方法や方針を変える事は極力避けるという事である(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・研究分野において国の内外から一定の評価を受けており、学内よりも世界を意識しているから。そのような生き様を学生に示すことで学生が感化され、研究の面白さに目覚め、それが結果的には教育に結実すると考えられる。(学内の評価に汲々としている教員を見て尊敬するでしょうか?)(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・研究活動を通して教育するのが大学である。大学の質保証を言うなら、高校の質保証を厳格化すべきである。(80%以上100%未満、BF、理・工学系)
- ・これまでの教育活動を評価によって変えるつもりはない。客観的基準というものが存在しない為。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・大学教員としての長年の経験をふまえて、教育を実践する。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・経営者に客観的で正確な教員評価ができるとは思えない。そもそも教員評価の導入に反対である。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・大学の生き残りのために必要不可欠だから(80%以上100%未満、BF、社会科学系)
- ・現時点でも、学びたい学生に対しての教育は十分にそうなっていると考えている為。(80%以上100%未満、BF、社会科学系)

- ・教育活動は処遇の差により変わるものではない。と考えている。必要なことには対応しなければならない。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・人件費にかかる予算が期待できない。とりくみたいと希望しても、研修に行けない。(80%以上100%未満、35、保健系)
- ・やるべきことをやるのみなので(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・現在、十分高い評価が得られているので、取り組み方を変える必要がない(80%以上100%未満、35、理・工学系)
- ・毎日全力で取りくんでいるため(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・自分と学生との関係が重要である。研究も自分のレベルを上げるためのものだから。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・内部処遇に囚われると教育活動の創造性が損われ自由な教育が阻まれるから(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・研究活動も重要であるため。(80%以上100%未満、35、社会科学系)
- ・学生の資格取得が最終評価であるため、自身の評価で左右されない。(80%以上100%未満、37.5、保健系)
- ・学生への教育活動は学生のために行なっているものであり、特に「金」のために行なおうとは思わない。(80%以上100%未満、37.5、理・工学系)
- ・今までが熱心か熱心でないか判断できないので(自分が熱心と思っていても人から見るとそうでない場合やその逆もあると考えます)。今まで通りに取り組むをえらんだ。(80%以上100%未満、37.5、理・工学系)
- ・実際に学生の学習経験に著しい変化をもたらすような教育活動への取り組みをするには、教育に関する専門的な知識や訓練を欠いているため。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・定年退職まで残り1年となったので。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・一人一人の学生を支援したい。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・評価基準が明確ではない(or見当外れ)ため、意識してもイミがない。(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・評価の客観性が不明確であるため(80%以上100%未満、37.5、人文科学系)
- ・そのような観点(評価を受ける)では授業をしていない。学生第1に授業をしている。(80%以上100%未満、42.5、保健系)
- ・自分のすべきことをしていると思っているので。(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・研究活動も教育活動と同じで重要な活動である(大学の研究力を上げることにつながる)(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・給与の高低で職を選んでいくわけではないから。(80%以上100%未満、42.5、理・工学系)
- ・大学の教員は教育と研究および社会貢献が仕事と考えているから。(100%以上、BF、理・工学系)
- ・現状で、学生の基礎学力を向上させる取り組みをしており、必ずしも本学の定める評価基準が本学学生の基礎学力向上に結び付くとは思わないため。(100%以上、BF、理・工学系)
- ・これまで通りにやってきた教育活動にある程度自信があり、処遇が変わるからといって、取り組みを変える気はない。(100%以上、BF、理・工学系)
- ・教育の質は処遇とは何ら関係はないから(100%以上、BF、理・工学系)
- ・現在、できる限り一生懸命やっており、手を抜いていないので、これからは頑張る所在のため。給与がインセンティブになるとは思わない。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・例)教育活動に対する学内での評価よりも、研究活動に対する学外での評価を重視しているため。←これです。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・現時点で自分が教育活動分野で最高点の業績評価を得ているため、これまで以上に熱心に取り組むと他領域(社会貢献、管理運営など)への取り組みが疎かになっているという評価に繋がりがねないため。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・教育に時間をかけることによって、研究の時間が少なくなるのは嫌なため。教育に熱心にとり組んでも、関心を持つ学生がほとんどおらず、徒労に感じる。(100%以上、BF、社会科学系)
- ・そもそも「教育の質保証」という発想自体が気に入らない。リメディアル教育のようなものが、教育の本義だとは思わない。学生は“工業製品”ではないのだから。JISマークでもつけるつもりなのだろうか？(100%以上、35、人文科学系)
- ・業務負担を増やしたくない(100%以上、35、人文科学系)
- ・研究をやろうと思えばこれ以上教育に力を注げない。(100%以上、35、人文科学系)
- ・大学は研究する以上に第一義的には次の世代を育てる教育機関であり、教育の質が問われる。評価にも反映される必要がある。(100%以上、35、社会科学系)
- ・処遇に大きな差が生じるとは考えにくいから(100%以上、35、社会科学系)
- ・評価の高低による処遇の差を設定すること自体がナンセンスであると考えます。評価者の標準化は難しいと考えているので。(100%以上、37.5、保健系)
- ・問13の②とまではいかないため。他者評価に関心ないから。(100%以上、37.5、保健系)
- ・教育に費す時間よりも研究活動に対する評価が勝っているため(100%以上、37.5、保健系)
- ・研究活動中心に行っている(100%以上、37.5、保健系)
- ・当然の義務と考えるから。(100%以上、37.5、保健系)
- ・自分の役割を自覚しているため。(100%以上、37.5、保健系)
- ・人は人。学生のために前を向いて進むのみ。(100%以上、37.5、理・工学系)

- ・数学の場合、教員が熱心に教えた、自己満足しても、学生がこの教員は自己中心的で自分一人でわかった気になっていると思う場合がありますので、本学の場合は、むしろ学生が熱心になったと教員側が思えるような仕組みを開発中です。従って、そう熱心に学生に詳しく易しく説明しつくすわけではないのですが、仕組み作りは熱心になっているといえます。(100%以上、37.5、理・工学系)
- ・普段から教育活動へ高い意識で取り組んでいるから。(100%以上、37.5、理・工学系)
- ・大学における評価と個人の教育方針は関係ないため(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・特任教員で高齢のために、いまだ関係ない。(100%以上、37.5、人文科学系)
- ・学生は単位が取りやすいとかやさしいとか評価が計算的である。また、理数系科目や専門のときは評価がひくくなる。評価が高い教員はおおむね学生に対して迎合している人である。よって、自分がやるべき内容は評価がよい悪いを意識して行うには注意が必要である。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・誰がどのように、何を基準に評価するのですか？そもそもこれ(〇〇〇〇に〇〇〇〇、まして高〇低！！)なんて、不可能なこと。民間でさえ「評価主義」は上手いかない、という現実があるのに、なぜ、教育現場でやるのか、意味不明、理解できない(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・以前、学生から、授業評価アンケートにぼろくそに書かれたくなければレポートの答えを教えろと言われたことがあり、上記評価を気にすることは教育の崩壊だと思っている。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・研究者として大成したいから。査読付論文や著書を書き続けることは、そんなに甘いことではない。あれもこれもはできないので、やるべき仕事と捨てるべき仕事を意識的に分けていかないと自分自身がつぶれてしまう。(100%以上、37.5、社会科学系)
- ・今まで以上になると疲弊する。(100%以上、40、保健系)
- ・〇〇〇〇〇〇〇〇〇の勤務なので、〇〇は〇〇し〇〇。(100%以上、40、保健系)
- ・教育現場の主体は学生であり、特に専門職となれば教育内容も多く、日々、教育研究との戦いです。学生に迷惑をかけないよう、教育環境を整理していくのが、私たちの役割と考えています。(100%以上、40、保健系)
- ・大学教員の絶対価値は研究能力であると考えから(100%以上、40、理・工学系)
- ・評価者が誰になるかもよるが、事務職員はもちろんピアでも自分の最新のSNS等も活用した教育の評価は不可能。(100%以上、40、社会科学系)
- ・現在において、教育活動を最優先しているため。(100%以上、42.5、保健系)
- ・やはり大学教員である限り、研究活動があつて、専門教育ができると考える。(100%以上、42.5、理・工学系)
- ・数字合わせのために、学力をつけていない、あるいは勉強する意欲のない学生を社会へ出すことは望ましくないと考える。組織と私の大学教育に対する考え方の相違である。(100%以上、42.5、理・工学系)
- ・教育活動に対する評価の方法に疑問を持っている。派手なパフォーマンスが高い評価を受けること。評価者の資質有無によって評価が変わってくる。などの点が危惧される。(100%以上、42.5、人文科学系)
- ・本来、勉強は自分でやるものである。いちいち評価など気にする理由が分からない。(100%以上、42.5、社会科学系)
- ・既に退職し、特任教授として任期付採用となっており、評価の高低による処遇への影響があるとは思われない。しかし、評価に関わらず、教育内容を向上させる努力は、立場に関係なく教員として絶対に必要なことと考えている。(100%以上、45、理・工学系)
- ・今も自分なりに積極的に取り組んでいるため。(100%以上、45、社会科学系)
- ・評価の基準に公正さがないため。(100%以上、47.5、保健系)
- ・研究活動≒教育活動と思っているから。(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・教育の評価は、学生が行なうので、学生が、評価基準を持ってい〇〇。学生に、評価のし方をきちんと教えるいかぎり、学生の教育アンケートに基づく、教育評価は信〇性が低い。一種のポピュリズム(人気とりになってしまう)。(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・信念があるため(100%以上、47.5、理・工学系)
- ・現在のエフォート内では、限界に近い活動をすでに行っている為。(100%以上、47.5、社会科学系)
- ・学生の学力が不足しているため。例えば、小数点の割り算ができない。47都道府県名を知らない。「大学教育」としては、手の打ちようがない。(100%以上、47.5、社会科学系)
- ・評価されて行うのが教育ではないから。(不明、不明、不明)

Ⅲ. あなたの教育・研究活動等についてうかがいます。

問15. あなたの教育と研究に対する関心はどの程度高いですか。

教育

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①関心が低い	1.2%	1.4%	1.4%	1.0%	2.1%	0.6%	2.5%	0.0%	0.8%	1.1%	2.0%	1.3%
②どちらかといえば関心が低い	6.8%	6.8%	5.1%	7.7%	7.8%	5.0%	8.0%	10.9%	4.2%	11.6%	5.4%	5.3%
③どちらかといえば関心が高い	49.5%	47.4%	52.9%	49.6%	50.9%	49.8%	44.8%	54.3%	48.3%	47.5%	50.5%	52.4%
④関心が高い	42.5%	44.4%	40.6%	41.7%	39.1%	44.6%	44.8%	34.8%	46.7%	39.9%	42.1%	41.1%
N	1062	365	276	415	281	520	163	92	259	276	202	319

研究

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①関心が低い	1.7%	2.2%	2.6%	0.7%	3.2%	1.2%	1.3%	1.1%	1.6%	2.6%	1.0%	1.6%
②どちらかといえば関心が低い	13.7%	15.3%	15.0%	11.7%	14.7%	14.6%	10.6%	12.0%	17.3%	9.9%	15.4%	13.3%
③どちらかといえば関心が高い	39.9%	42.2%	38.0%	39.5%	41.0%	41.4%	35.6%	37.0%	44.7%	34.4%	37.8%	42.5%
④関心が高い	44.7%	40.3%	44.5%	48.0%	41.0%	42.8%	52.5%	50.0%	36.5%	53.1%	45.8%	42.5%
N	1050	360	274	410	278	514	160	92	255	273	201	315

問16. あなたが平均的な1週間に仕事をする時間を100と考え、各領域にどのくらいの時間を割いているか、学期中と休暇中に分けて、その割合を記入してください。

学期中:教育

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	49.2%	48.4%	48.6%	50.5%	47.3%	50.4%	50.6%	46.4%	53.5%	48.2%	47.6%	47.8%
中央値	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
最小値	5.0%	5.0%	5.0%	10.0%	5.0%	5.0%	10.0%	10.0%	10.0%	5.0%	5.0%	10.0%
最大値	100.0%	100.0%	93.0%	100.0%	80.0%	100.0%	90.0%	100.0%	100.0%	85.0%	100.0%	85.0%
標準偏差	17.5	17.3	17.6	17.5	16.8	17.5	17.6	18.6	19.7	16.2	17.3	16.3
N	1005	342	268	389	269	487	156	87	243	260	185	311

学期中:研究

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	18.1%	17.9%	17.7%	18.4%	17.3%	17.7%	19.5%	19.6%	15.7%	21.4%	17.1%	17.6%
中央値	20.0%	20.0%	15.0%	20.0%	20.0%	20.0%	15.0%	20.0%	15.0%	20.0%	15.0%	15.0%
最小値	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
最大値	80.0%	60.0%	50.0%	80.0%	65.0%	60.0%	80.0%	70.0%	50.0%	70.0%	50.0%	80.0%
標準偏差	11.4	10.7	11.1	12.2	10.7	10.8	13.9	11.6	9.8	11.4	10.8	12.2
N	1005	342	268	389	269	487	156	87	243	260	185	311

学期中:大学管理・運営

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	18.7%	19.0%	19.0%	18.3%	19.2%	18.5%	17.2%	20.9%	16.7%	18.2%	20.8%	19.5%
中央値	15.0%	15.0%	15.0%	15.0%	15.0%	15.0%	10.0%	20.0%	10.0%	15.0%	20.0%	15.0%
最小値	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
最大値	85.0%	85.0%	80.0%	80.0%	85.0%	80.0%	60.0%	70.0%	70.0%	80.0%	85.0%	80.0%
標準偏差	15.1	15.5	15.4	14.7	15.6	15.1	14.3	15.5	15.1	13.7	16.6	15.3
N	1005	342	268	389	269	487	156	87	243	260	185	311

学期中:社会貢献・連携

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	8.3%	8.7%	8.8%	7.5%	9.6%	7.8%	7.5%	7.7%	8.2%	7.7%	8.1%	8.9%
中央値	10.0%	10.0%	10.0%	5.0%	10.0%	10.0%	5.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%
最小値	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
最大値	60.0%	50.0%	60.0%	40.0%	60.0%	30.0%	30.0%	30.0%	50.0%	40.0%	40.0%	60.0%
標準偏差	7.1	7.5	7.6	6.5	8.8	6.4	6.5	5.9	7.1	6.1	7.0	8.0
N	1005	342	268	389	269	487	156	87	243	260	185	311

学期中:所属している大学以外での業務

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	5.7%	6.0%	5.9%	5.3%	6.6%	5.5%	5.1%	5.4%	5.9%	4.5%	6.3%	6.2%
中央値	5.0%	5.0%	5.0%	5.0%	5.0%	2.0%	5.0%	5.0%	5.0%	0.0%	5.0%	5.0%
最小値	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
最大値	70.0%	60.0%	70.0%	60.0%	70.0%	70.0%	40.0%	30.0%	50.0%	40.0%	70.0%	70.0%
標準偏差	8.2	8.4	9.2	7.2	9.7	8.0	6.7	6.6	7.9	6.3	8.8	9.3
N	1005	342	268	389	269	487	156	87	243	260	185	311

休暇中:教育

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	24.1%	23.3%	23.8%	25.0%	22.2%	24.2%	26.5%	25.4%	33.6%	23.2%	19.6%	20.4%
中央値	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	30.0%	20.0%	15.0%	20.0%
最小値	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
最大値	95.0%	94.0%	90.0%	95.0%	80.0%	94.0%	95.0%	90.0%	95.0%	70.0%	90.0%	80.0%
標準偏差	17.8	17.0	17.2	18.8	15.9	17.8	20.7	17.6	22.2	14.5	15.8	14.8
N	993	337	257	393	268	478	154	87	235	254	185	313

休暇中:研究

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	41.5%	39.9%	40.6%	43.3%	39.3%	42.1%	42.6%	42.5%	32.8%	44.8%	44.4%	43.4%
中央値	40.0%	40.0%	40.0%	40.0%	40.0%	40.0%	40.0%	40.0%	30.0%	40.0%	45.0%	40.0%
最小値	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
最大値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	90.0%	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%
標準偏差	21.7	21.4	21.1	22.4	21.3	22.0	23.8	17.9	20.0	19.7	22.4	22.7
N	993	337	257	393	268	478	154	87	235	254	185	313

休暇中:大学管理・運営

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	16.5%	17.6%	16.6%	15.4%	17.6%	16.3%	14.8%	16.9%	13.5%	15.9%	18.1%	18.2%
中央値	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	15.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%
最小値	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
最大値	90.0%	90.0%	80.0%	70.0%	90.0%	90.0%	60.0%	70.0%	80.0%	70.0%	90.0%	90.0%
標準偏差	15.8	17.8	15.9	13.8	16.9	16.0	14.4	13.6	14.6	13.4	17.6	17.1
N	993	337	257	393	268	478	154	87	235	254	185	313

休暇中:社会貢献・連携

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	10.6%	11.3%	11.4%	9.5%	12.2%	10.5%	9.7%	8.3%	11.1%	9.8%	10.1%	11.3%
中央値	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%
最小値	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
最大値	80.0%	50.0%	80.0%	60.0%	60.0%	80.0%	60.0%	40.0%	80.0%	50.0%	50.0%	60.0%
標準偏差	10.5	10.6	11.2	10.0	11.4	10.5	10.3	7.9	11.9	9.1	9.7	11.1
N	993	337	257	393	268	478	154	87	235	254	185	313

休暇中:所属している大学以外での業務

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
平均値	7.3%	7.8%	7.5%	6.8%	8.8%	6.9%	6.4%	6.8%	9.0%	6.3%	7.8%	6.6%
中央値	1.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%	5.0%	0.0%	5.0%	0.0%
最小値	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
最大値	100.0%	100.0%	90.0%	60.0%	100.0%	100.0%	80.0%	30.0%	100.0%	100.0%	90.0%	70.0%
標準偏差	12.0	12.7	13.4	10.4	13.7	12.0	10.5	8.8	13.9	10.9	12.0	11.3
N	993	337	257	393	268	478	154	87	235	254	185	313

問17. あなたは、以下のような教育活動をどの程度行っていますか。

1) 各授業での学びが学生にとってどのような意味があるのか十分説明すること

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①行っていない	1.2%	1.6%	0.7%	1.2%	1.4%	1.1%	0.6%	2.2%	0.4%	0.7%	1.0%	2.5%
②←	5.1%	7.1%	3.2%	4.6%	7.1%	3.6%	4.8%	7.6%	3.1%	6.9%	7.0%	4.0%
③→	37.4%	36.4%	34.3%	40.4%	33.9%	39.7%	36.4%	37.0%	37.4%	37.5%	32.0%	40.7%
④行っている	56.3%	54.8%	61.8%	53.8%	57.5%	55.5%	58.2%	53.3%	59.2%	54.9%	60.0%	52.8%
N	1067	365	280	416	280	524	165	92	262	277	200	322

2) 学生が授業中に自分の意見や考えを述べる機会を積極的に設けること

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①行っていない	4.3%	4.1%	3.9%	4.8%	3.2%	4.4%	6.1%	4.3%	2.7%	7.9%	2.0%	4.0%
②←	20.3%	18.6%	19.6%	22.4%	18.9%	19.0%	24.2%	25.0%	18.3%	32.9%	12.0%	16.4%
③→	38.8%	38.1%	44.1%	36.3%	37.9%	42.3%	35.2%	30.4%	40.1%	36.8%	36.0%	41.8%
④行っている	36.6%	39.2%	32.4%	36.5%	40.0%	34.3%	34.5%	40.2%	38.9%	22.4%	50.0%	37.8%
N	1068	365	281	416	280	525	165	92	262	277	200	323

3) 学生が授業に参加するグループワークなどの機会を積極的に設けること

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①行っていない	10.8%	11.8%	9.3%	11.1%	9.7%	9.7%	14.0%	15.2%	8.0%	18.8%	8.0%	8.1%
②←	20.8%	23.1%	21.1%	18.5%	24.5%	21.1%	17.1%	14.1%	15.6%	31.5%	16.1%	18.6%
③→	36.1%	33.1%	40.4%	36.1%	35.6%	38.3%	34.1%	29.3%	36.6%	32.2%	38.7%	37.6%
④行っている	32.4%	32.0%	29.3%	34.4%	30.2%	30.9%	34.8%	41.3%	39.7%	17.4%	37.2%	35.7%
N	1065	363	280	416	278	525	164	92	262	276	199	322

4) 学生の授業外学修を促進する機会(課題など)を積極的に設けること

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①行っていない	7.1%	8.5%	6.1%	6.5%	6.8%	6.5%	8.6%	8.7%	8.8%	7.9%	5.0%	6.3%
②←	22.4%	23.4%	19.6%	23.7%	23.3%	23.7%	20.9%	16.3%	23.0%	18.4%	25.1%	24.1%
③→	40.4%	39.6%	45.0%	37.8%	40.9%	41.1%	34.4%	44.6%	35.2%	43.7%	40.2%	41.6%
④行っている	30.2%	28.6%	29.3%	32.0%	29.0%	28.7%	36.2%	30.4%	33.0%	30.0%	29.6%	28.1%
N	1063	364	280	413	279	523	163	92	261	277	199	320

5)適切なコメントを付して課題などの提出物を返却すること

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①行っていない	8.6%	8.5%	7.5%	9.6%	9.0%	7.6%	9.7%	12.0%	8.0%	8.7%	7.5%	9.9%
②←	22.7%	23.0%	22.5%	22.8%	22.6%	23.6%	20.0%	23.9%	16.0%	23.6%	22.4%	27.9%
③→	35.2%	34.8%	38.6%	33.1%	34.8%	36.5%	32.1%	33.7%	38.2%	32.6%	38.3%	32.8%
④行っている	33.5%	33.7%	31.4%	34.5%	33.7%	32.3%	38.2%	30.4%	37.8%	35.1%	31.8%	29.4%
N	1068	365	280	417	279	526	165	92	262	276	201	323

6)一定の知識・技能等が身についているかどうかに基づき成績評価すること

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①行っていない	1.5%	1.9%	1.4%	1.2%	1.1%	1.9%	0.6%	2.2%	1.5%	0.4%	3.0%	1.6%
②←	6.8%	7.7%	5.3%	7.0%	7.5%	7.4%	3.6%	6.6%	4.2%	7.2%	6.5%	8.7%
③→	43.9%	43.0%	46.6%	42.5%	49.1%	43.4%	37.0%	41.8%	41.0%	40.4%	41.5%	50.3%
④行っている	47.8%	47.4%	46.6%	49.3%	42.3%	47.2%	58.8%	49.5%	53.3%	52.0%	49.0%	39.4%
N	1066	363	281	416	279	525	165	91	261	277	200	322

問18. あなたは、過去3年間に以下のような研究成果をどの程度あげましたか。

1)学会等での発表

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①ない	18.5%	19.8%	23.2%	14.5%	21.1%	20.0%	13.9%	12.0%	15.1%	9.2%	19.1%	29.3%
②3回以内	42.4%	44.4%	42.9%	40.5%	47.1%	41.1%	41.2%	38.0%	49.4%	33.3%	46.2%	42.1%
③4～6回	21.5%	22.9%	17.9%	22.9%	20.4%	21.5%	24.8%	19.6%	20.8%	22.3%	22.1%	21.2%
④7回以上	17.6%	12.9%	16.1%	22.2%	11.4%	17.5%	20.0%	30.4%	14.7%	35.2%	12.6%	7.5%
N	1064	363	280	415	280	521	165	92	265	273	199	321

2)学術書、学術雑誌に発表した論文(第一筆者)

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①ない	27.2%	28.3%	29.4%	24.6%	30.2%	25.6%	27.3%	26.1%	31.7%	32.4%	16.9%	25.3%
②3本以内	52.0%	51.2%	53.5%	51.8%	50.2%	53.7%	51.5%	50.0%	54.6%	45.1%	54.7%	54.4%
③4～6本	15.4%	16.3%	12.4%	16.6%	15.7%	15.2%	13.9%	18.5%	9.9%	16.0%	20.9%	15.9%
④7本以上	5.5%	4.2%	4.6%	7.0%	3.9%	5.6%	7.3%	5.4%	3.8%	6.5%	7.5%	4.4%
N	1064	361	282	415	281	520	165	92	262	275	201	320

3) 学会誌相当のレフリー論文(第一筆者)

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①ない	55.1%	56.9%	57.2%	51.9%	56.7%	57.0%	48.1%	51.1%	53.7%	50.8%	54.3%	60.1%
②1本	21.4%	23.8%	20.3%	20.5%	23.5%	21.7%	21.0%	15.9%	23.5%	18.0%	25.9%	20.3%
③2本	12.1%	9.9%	10.9%	14.8%	11.2%	10.1%	16.7%	18.2%	12.9%	14.3%	9.1%	11.4%
④3本以上	11.3%	9.3%	11.6%	12.8%	8.7%	11.2%	14.2%	14.8%	9.8%	16.9%	10.7%	8.2%
N	1040	353	276	405	277	507	162	88	255	266	197	316

4) 科学研究費の採択

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①ない	63.3%	70.2%	69.4%	53.8%	70.1%	66.9%	57.0%	35.9%	65.0%	56.8%	57.8%	71.6%
②ある(分担者)	12.7%	12.3%	11.5%	14.1%	12.8%	13.3%	12.1%	10.9%	14.4%	9.9%	15.1%	12.5%
③ある(代表者)	15.6%	12.0%	13.7%	19.6%	11.0%	13.9%	18.2%	32.6%	13.7%	20.5%	18.6%	10.6%
④ある(代表者及び分担者)	8.4%	5.6%	5.4%	12.4%	6.0%	5.8%	12.7%	20.7%	6.8%	12.8%	8.5%	5.3%
N	1061	359	278	418	281	517	165	92	263	273	199	320

IV. 最後に、あなた自身のことについてうかがいます。

問19. あなたの基本的属性について教えてください。

1) 年齢

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①20～40代前半	20.9%	18.4%	17.2%	25.8%	20.1%	18.1%	28.7%	26.1%	16.5%	19.1%	18.3%	27.9%
②40代後半	12.1%	9.3%	13.3%	13.2%	10.2%	12.4%	11.4%	15.2%	13.2%	11.9%	11.9%	10.8%
③50代前半	16.8%	13.2%	20.7%	17.2%	17.0%	15.8%	21.0%	14.1%	19.9%	20.2%	12.9%	13.6%
④50代後半	16.9%	16.7%	17.5%	16.5%	15.9%	17.3%	18.0%	15.2%	14.3%	18.4%	18.8%	16.4%
⑤60代～	33.4%	42.5%	31.2%	27.3%	36.7%	36.5%	21.0%	29.3%	36.1%	30.3%	38.1%	31.3%
N	1074	365	285	418	283	526	167	92	266	277	202	323

2) 最高学位

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①学士	6.4%	10.2%	5.3%	3.9%	10.8%	6.3%	1.2%	3.4%	3.4%	4.8%	7.5%	9.7%
②修士	36.1%	38.3%	42.3%	29.9%	37.2%	40.7%	29.4%	18.0%	41.2%	7.7%	47.5%	48.9%
③博士	56.8%	50.4%	51.6%	65.9%	51.3%	52.2%	68.7%	78.7%	54.2%	87.1%	44.0%	41.1%
④その他	0.7%	1.1%	0.7%	0.2%	0.7%	0.8%	0.6%	0.0%	1.1%	0.4%	1.0%	0.3%
N	1058	363	281	408	277	523	163	89	262	271	200	319

3)現在の職階

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①講師	16.2%	16.3%	16.0%	16.3%	14.2%	16.4%	20.9%	13.2%	28.0%	8.1%	12.4%	16.0%
②准教授	26.2%	22.4%	24.9%	30.7%	26.5%	24.2%	28.2%	34.1%	24.1%	28.2%	27.4%	25.8%
③教授	53.7%	56.5%	55.5%	49.6%	54.5%	55.2%	49.7%	48.4%	46.0%	60.8%	54.2%	53.1%
④特任教員等	3.9%	4.7%	3.6%	3.4%	4.7%	4.2%	1.2%	4.4%	1.9%	2.9%	6.0%	5.0%
N	1059	361	281	411	275	524	163	91	261	273	201	318

問20. あなたは、以下のような教員に該当しますか。

1)貴学部(あるいは大学)における教育に責任を負う教員(例えば教務委員など)

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①該当しない	49.1%	47.8%	46.3%	51.9%	48.1%	48.1%	54.9%	46.7%	44.2%	56.7%	43.1%	50.2%
②該当する	50.9%	52.2%	53.7%	48.1%	51.9%	51.9%	45.1%	53.3%	55.8%	43.3%	56.9%	49.8%
N	1067	366	281	414	283	524	162	92	265	275	204	317

2)職務として研究活動が求められない教員(例えば教育専従教員や実務家教員など)

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①該当しない	95.6%	95.0%	95.3%	96.4%	93.2%	96.5%	96.3%	96.7%	93.9%	97.4%	95.5%	95.6%
②該当する	4.4%	5.0%	4.7%	3.6%	6.8%	3.5%	3.7%	3.3%	6.1%	2.6%	4.5%	4.4%
N	1056	361	278	411	281	517	162	90	263	272	198	317

問21. あなたは、これから5年以内に、他の大学等に異動あるいは退職する予定がありますか。

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①異動あるいは退職する予定はないし、そうしたいとも考えていない	43.8%	36.1%	46.8%	48.3%	35.5%	46.4%	47.5%	46.7%	35.0%	51.8%	44.2%	43.5%
②異動あるいは退職する予定はないが、できればそうしたいと考えている	30.6%	31.9%	30.6%	29.2%	35.9%	27.8%	31.5%	27.8%	34.2%	21.7%	33.7%	33.0%
③異動あるいは退職せざるを得ない(例えば、任期付雇用で継続雇用の見通しがないため、定年のため、など)	16.3%	21.6%	12.2%	14.7%	18.1%	16.3%	12.3%	18.9%	16.0%	18.8%	15.6%	15.2%
④異動あるいは退職する予定がある(③以外)	9.3%	10.4%	10.4%	7.8%	10.5%	9.5%	8.6%	6.7%	14.8%	7.7%	6.5%	8.3%
N	1049	357	278	408	276	515	162	90	257	272	199	315

問22. あなたは、今の仕事や教育・研究活動等についてどのように感じていますか。

1) 私は今の仕事に対して全般的に満足している

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①あてはまらない	9.7%	12.8%	9.5%	6.7%	10.7%	9.7%	10.2%	4.3%	12.9%	6.5%	11.4%	8.4%
②←	24.8%	23.0%	27.5%	25.0%	24.6%	23.4%	28.1%	29.3%	25.8%	25.2%	23.4%	25.1%
③→	42.8%	39.9%	44.7%	44.2%	43.4%	45.6%	36.5%	37.0%	40.2%	41.0%	42.8%	46.7%
④あてはまる	22.7%	24.3%	18.3%	24.0%	21.4%	21.3%	25.1%	29.3%	21.2%	27.3%	22.4%	19.8%
N	1072	366	284	416	281	526	167	92	264	278	201	323

2) 私は今の教育活動に対して全般的に満足している

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①あてはまらない	9.8%	11.4%	9.5%	8.2%	11.7%	8.7%	11.4%	5.4%	11.4%	6.8%	10.9%	9.9%
②←	27.6%	27.8%	28.5%	26.9%	28.7%	27.1%	23.5%	34.8%	26.5%	31.3%	24.8%	27.2%
③→	46.9%	44.1%	48.9%	47.8%	45.4%	48.4%	47.6%	41.3%	46.6%	44.2%	44.1%	51.1%
④あてはまる	15.8%	16.6%	13.0%	17.1%	14.2%	15.7%	17.5%	18.5%	15.5%	17.6%	20.3%	11.8%
N	1073	367	284	416	282	527	166	92	264	278	202	323

3) 私は今の研究活動に対して全般的に満足している

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①あてはまらない	22.8%	24.0%	24.0%	21.0%	24.6%	21.7%	25.9%	18.5%	25.9%	19.1%	21.4%	24.5%
②←	37.8%	37.7%	37.5%	38.6%	37.4%	38.1%	36.7%	41.3%	37.3%	38.6%	36.3%	39.0%
③→	29.7%	27.9%	30.0%	30.4%	27.8%	31.6%	26.5%	27.2%	27.0%	31.8%	32.3%	27.6%
④あてはまる	9.7%	10.4%	8.5%	10.1%	10.3%	8.6%	10.8%	13.0%	9.9%	10.5%	10.0%	9.0%
N	1070	366	283	415	281	525	166	92	263	277	201	323

4) 教育と研究との両立は非常に難しい

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①あてはまらない	11.0%	13.5%	10.3%	9.4%	12.8%	10.0%	11.4%	10.9%	9.2%	14.1%	13.4%	8.4%
②←	21.8%	21.2%	21.6%	22.2%	21.3%	24.2%	14.5%	21.7%	21.1%	19.9%	20.4%	24.5%
③→	32.0%	32.4%	31.9%	31.6%	31.9%	32.8%	29.5%	31.5%	25.7%	33.9%	33.8%	34.2%
④あてはまる	35.2%	33.0%	36.2%	36.9%	34.0%	33.0%	44.6%	35.9%	44.1%	32.1%	32.3%	32.9%
N	1067	364	282	415	282	521	166	92	261	277	201	322

問23. あなたには、貴大学・学部経営状態や定員充足状況等についての危機意識はどの程度ありますか。

	全体	定員充足率			偏差値				学部系統			
		80%未満	80%以上 100%未満	100%以上	BF	35・37.5	40・42.5	45・47.5	保健系	理・工学系	人文科学系	社会科学系
①まったくない	2.0%	0.8%	1.1%	3.7%	1.1%	1.2%	4.3%	5.6%	1.5%	0.7%	4.1%	2.2%
②どちらかといえばない	9.5%	2.2%	5.4%	18.9%	3.6%	7.2%	16.0%	30.3%	13.8%	9.8%	4.6%	8.9%
③どちらかといえばある	31.2%	21.7%	34.2%	37.3%	24.7%	30.8%	38.3%	39.3%	30.8%	29.0%	34.0%	31.3%
④かなりある	57.3%	75.3%	59.4%	40.2%	70.6%	60.9%	41.4%	24.7%	53.8%	60.5%	57.2%	57.6%
N	1052	360	278	408	279	516	162	89	260	276	194	316